



安心の地域医療を支える

JCHO NEWS

Japan Community Health care Organization News



[特集]

JCHOにおける 現場の経営改善の取り組み

02 北海道東北地区事務所移転のご案内

北海道東北地区事務所 総務経理課 角田 芙美子

【Information】 JCHO広報勉強会を開催します！

03 包括連携を締結

京都府立医科大学との連携／東京保健医療大学との連携

04 退任・新任のご挨拶

08 新任院長メッセージ

10 【特集】 JCHOにおける現場の経営改善の取り組み 「役職者としてのあるべき姿」

～部署間の関係性向上の場の創成～

大和郡山病院 診療放射線技師長 中尾 哲

12 【トピックス】 「骨粗鬆症センター」の立ち上げについて

船橋中央病院 整形外科医長 山下 正臣

薬剤部長会議（TV会議）を開催して ～薬剤師を取り巻く環境変化に対応していく～

東京高輪病院薬剤部長 本部医療部医療課薬事専門職併任 片山 歳也

14 【広報アラカルト】 当院におけるYouTube活用事例について

北海道病院 総務企画課 経営企画係長 土田 駿介

YouTubeを利用した医療者向け公開講座の取り組みについて

大阪病院 統括診療部長 島田 幸造

16 【JCHO GROUP】 施設一覧

北海道東北地区事務所移転の

ご案内

北海道東北地区事務所 総務経理課 角田 芙美子



北 海道東北地区管理部は2022年4月1日に北海道東北地区事務所となり、高輪の本部から離れ、仙台病院内へ移転しました。

もともとJCHO発足当初は、北海道東北地区事務所として仙台市内において運営していましたが、その後の組織改編により2017年には北海道地区は北海道四国地区管理部へ、東北地区は当時の東日本地区事務所に属することとなり、いずれも事務所が高輪になりました。2020年度には再び北海道と東北地区が一緒の管理部となり、今回仙台病院内に地区事務所を構えることとなりました。事務所の移転に際して多大なご協力をいただきました村上地区担当理事、また仙台病院の職員の皆様に感謝申し上げます。

移転により管内病院との距離が物理的に近くなりましたので、今まで以上に連携を密に取り、病院運営が円滑に行えるよう支援に努めてまいります。

地区事務所を構える仙台病院は、昨年5月に新築移転した病院です（詳しくはJCHOニュース2021夏号をご覧ください）。新しい建物の中に事務所を入れていただき大変恐縮です。

末筆ではございますが、これまで北海道東北地区管理部の運営に関わっていただきました関係者の皆様、また移転にあたりご協力くださいました関係者の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Information

JCHO広報勉強会を開催します！

広報発信力をアップして病院内のつながり、地域とのつながりを強めましょう。



2022年度は、各病院の広報担当者を中心に広報やコミュニケーションスキルのアップに関心のある方を対象に、鹿野先生をお迎えし「広報勉強会」を開催します。全国どこからでもご参加いただけるようオンラインでの開催を予定しています。詳細や申し込み方法は、別途ご案内します。

【講師】鹿野 由利子先生（千葉大学医学部附属病院特任准教授）

【略歴】2012年度より千葉大学医学部附属病院の特任准教授として病院広報室に勤務するほか、ちば医経塾の講師として病院広報戦略の3講義を担当。日本眼科医会広報顧問、静岡大学広報アドバイザーなども務める。

【賞歴】日本PR協会「PRアワードグランプリ」最高賞
国際PR協会「ゴールデン・ワールド・アワーズ」全体最高賞 など受賞

開催予定

- 第1回 6月 病院が取り組む広報活動とは
～広報の基礎知識を学んで、自院の広報活動をセルフチェックしてみよう～
- 第2回 7月 患者さん向けチラシや広報誌の作り方
～これでもう悩まない！わかりやすく作るコツを学ぶ～

- 第3回 9月 皆に伝わる病院内広報の勘所
～皆の注目を集める院内情報提供のコツを学ぶ～
- 第4回 10月 新聞やテレビで取材してもらう方法
～病院の取り組みを地元のニュースにしよう！リスク対応も学ぼう～

包括連携 を 締結

京都府立医科大学と京都鞍馬口医療センター 双方の医療機能を生かした効率的な医療連携

JCHOと京都府健康福祉部長立ち合いの下、京都府立医科大学と包括的連携に関する協定書を2021年11月26日に締結しました。

この協定は、京都府の地域医療構想の下、京都府立医科大学附属病院と京都鞍馬口医療センター双方の医療機能を生かし、効率的な医療連携を図ることにより、より多くの患者様に適切な医療を提供することを目的としています。

<具体的な連携内容>

- 1) 地域医療に貢献するために必要な医療機能の分担・強化に関すること
- 2) 医療・介護の施策の推進や地域の課題解決のための知識資源、人的資源、物的資源の活用に関すること
- 3) 学術研究及び人材育成に関すること

<京都府立医大との連携方針>

- 1) 高度急性期医療を担う京都府立医科大学附属病院等と地域のクリニックと連携して地域医療における効率的な医療連携体制を築いてまいります。
- 2) 医療人材の育成及び学術の振興では、大学では賄えない分野の教育の一翼を担うこととし、京都府全体の医療人材の育成を含めた協力関係を築いてまいります。



京都府立医科大学・JCHO出席者・京都府健康福祉部長

東京医療保健大学と医療・教育・研究に 関わる連携と交流の促進

JCHOと学校法人青葉学園東京医療保健大学（以下「東京医療保健大学」）は、2021年12月3日付でJCHO本部において調印式を行い、医療・教育・研究等に関わる連携・交流を促進する包括協定を締結しました。今後、JCHOと東京医療保健大学は、医療・介護の質の向上や、エビデンスに基づく医療提供システムの再構築などの各種課題解決のための協働事業の推進に迅速に対応してまいります。

<本協定のねらい・目的>

地域医療機能推進機構と東京医療保健大学は、2016年11月から協働事業協定に基づき、地域のニーズに沿った質の高い医療の提供に貢献できる看護師等の育成や確保を推進してきました。

今後はポストコロナにおける地域医療の課題やニーズを見据えて的確に対応するため、看護師等の育成や確保のみならず、医療・介護の質の向上やエビデンスに基づく医療提供システムをあらためて構築することが必要となります。これらの課題に対応する事業を新たに協働し推進するため、既存の協働事業協定をさらに発展させた包括的連携協定書を締結しました。

具体的には、JCHOの職員が勤務を続けながら東京医療保健大学の学生として在籍し、医療現場における課題解決のため、リスクマネジメント・医療保健データの活用・診療看護師（NP）・特定行為が実施できる看護師などの看護分野で研究を行うことにより、各種の課題解決に資する人材の養成や共同研究を推進する予定です。



調印式の様子

連携事項の範囲

- 1) 地域のニーズに沿った質の高い医療の提供に貢献できる看護師等の育成や確保に関すること
- 2) 教育・研究・医療保健に関する人的資源の交流及び知的・物的資源の相互活用に関すること
- 3) 地域の保健・医療・福祉の機能向上に関すること
- 4) その他相互に連携・協力することが必要と認められる事項に関すること



尾身理事長 退任のご挨拶

尾身 茂

2022年3月31日をもってJCHOの理事長を退任することとなりました。RFO2年間とJCHO8年間の合計10年間、理事長を務めましたが、私に与えられた仕事は、色々と改善すべきところはあったかもしれませんが、大体できたのではないかと思います。そして、2年近く前から、そろそろ次の世代にバトンタッチしたほうが良いと厚生労働省に伝えていました。

この10年間、職員の皆様には、現場で文字通り献身的な努力をしていただきました。JCHO発足は、社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の3つの団体が民間の団体が公的機関になるという社会的実験でしたので、現場の職員、特に院長たちには、今までの団体での経営方針、ガバナンス、待遇など、自由が奪われるのではないかと懸念、不安があったと思います。そのような中、率直に皆さんの問題意識、もっと端的に言えば不満を十分聞き、我々の思いも色々な場面で伝えられた。結果すべてが解決したわけではありませんが、自由に意見を交換することができたことが、この10年間で一番よかった事だと思います。

私には2つのミッションが与えられていました。1つは、交付金が入らない状況で自律的に経営をすること。経常収支が連続してプラスになったことは、職員の皆さんの地域医療への真摯な尽力、貢献があったからだと思います。もう1つは、独法に求められる役割。地域医療への貢献、医師不足の地域への人材派遣、近年はコロナへの対応で本当に大変な思いをされたと思いますが、役割をしっかりと果たしていただいた職員の皆様のことを誇りに持っています。また、RFOからJCHOに至るプロセスは山あり谷あり、一時はつぶされるのではないかと考えたこともあります。しかし船出をしてみると、北風や台風も来ましたが、JCHOは非常に誠実で、一生懸命で真面目な人たちの集まりなので、皆様の力で乗り越えられたと思います。

さて、私は、2022年4月より公益財団法人日本結核予防会で勤務します。WHOでも感染症対策に関わっていましたが、まだ結核による大人の死亡者がエイズやマラリアより多いため、日本の、世界の結核対策に関わりたいと思っています。

次のJCHO理事長は山本修一氏です。一年前から一緒に仕事をしてきましたが、私は安心して次に行けると確信しました。また、JCHOには大小さまざまな病院があり、経営が苦しい病院もあると思いますが、今まで以上に地域に求められ、期待にますます応えられる病院であってほしい。先に申し上げたように、JCHOには一生懸命で真面目な、優秀な人がたくさんいるので、実現できると確信しています。

職員の皆様が今まで以上にJCHOを愛して、さらに発展されることを祈っています。
どうもありがとうございました。

JCHO 新理事長の山本修一です。
私からのメッセージは、
JCHOニュース夏号でお届けします。



退任理事の挨拶

この度、広報・コミュニケーション担当理事から、同じ担当のままですが、広報・コミュニケーション担当の理事長特任補佐に役職が変更になりました。この2年間はJCHOニュースでの様々な企画・執筆をはじめ、理事長からの発信、コミュニケーションに関するアドバイスや研修講師、リーダーシップ研修企画などを担いました。コロナ禍で緊迫していたJCHO内の空気をコミュニケーションを通じて少しでも和らげ、みなさんのモチベーションにつながっていたら幸いです。

今年度からは、JCHO内でのコミュニケーションやリーダーシップに関わる研修を開始し、よりよい医療を効果的に届けられる職場づくりに貢献したいと思います。また、JCHOの良さをより多くの方に知っていただくために、JCHO外への広報を強化し、各病院が地域や行政、マスメディアとの連携を図りやすくお手伝いをしていきたいと思います。まず手始めに、本号でもご紹介するように広報勉強会を開催していく予定です。

これからもみながつながり一丸となって、質の高い医療を届けられるようコミュニケーションの一層の改善に努めていきたいと思います。

2014年9月に東京高輪病院の初代院長に就任して以来、当院を地域に必要とされる地域に根ざした自立した病院とすべく、職員とともに工夫と努力を積み重ねて来たつもりです。初期の頃は「せんぼ」時代の、ある意味では「良き時代」の面影を引きずっている職員もあり、なかなか大変なこともありました。しかし、気持ちを切り替えて前向きに取り組んで下さる多くの職員に支えられてここまで来ることができたのは実に幸いなことだと思っています。このたび、3月末をもって退任することになりました。目指す病院の姿にはほど遠い姿で次期院長に引き継ぐことになったのは心苦しいことです。これも私の力不足と不徳のいたすところと実に申し訳なく思っています。

また、2018年からは東日本地区担当理事、2020年からは関東地区担当理事と北海道東北地区担当理事を兼務させていただきました。地区担当理事の経験は私にとっては貴重な経験となりました。1病院の院長では見ることの出来なかった景色を見させていただき勉強になりました。理事長をはじめ、本部の職員の皆様、地区管理部の皆様ならびに地区事務所の皆様に支えていただき、無事退任出来ることになったことに感謝いたします。ありがとうございました。JCHOの益々のご発展とJCHOで働く全ての職員の皆様のご健勝を願って退任の挨拶とさせていただきます。

2年間、近畿四国地区担当理事を務めさせていただきました。この2年間は院長としてだけでなく、地区担当理事としても新型コロナウイルス感染症との闘いでした。近畿四国地区はサイゾ的にも機能的にもきわめて多彩な11病院を包括しています。そういう組織の中で、地区担当理事・地区事務所ができることは本部との間にたって、個々の病院がその個性・特性を活かして地域の要請に応えられるような医療活動を展開できるように支援していくことだろうと考え、活動をしてきました。新型コロナウイルス感染症の影響は当初の想像をはるかに超え、本部との間だけでなく病院間においてもフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションをとることが困難でした。それでも私たちがインターネットを通じたコミュニケーションに慣れてきたこともあり、この半年～1年においてはそれなりにうまく活用してこれたのではないかと思います。今から振り返ると、もっといろいろできたのではないかと悔やまれることもあり、そこは皆さまの寛大な気持ちでご容赦いただきたいと思います。末筆ながら、JCHOの益々のご発展および職員の皆さんの益々のご健勝を祈ります。在任中はいろいろとありがとうございました。



広報・コミュニケーション担当理事

徳岡 晃一郎



東京高輪病院 院長
関東地区担当理事・
北海道東北地区担当理事

木村 健二郎



近畿四国地区担当理事

増山 理

新任理事の挨拶

4月よりJCHO本部のIT担当理事を拝命いたしました。

これまでIT企業で、電子カルテや地域医療ネットワークなど、ヘルスケア分野のソリューションビジネスに従事してまいりました。

全国の医療機関に様々なソリューションやサービスを提供してきた経験を生かし、少しでもJCHOの皆様のお役に立てればと思っています。

また、JCHOが目指す地域完結型医療を推進するために、医療や介護の現場を支える情報システムを整備する事で、地域住民の皆様の期待にも応えていきたいと思っています。

一方で、情報システムのコストが病院経営を圧迫していることも確かです。

目標をしっかりと定めた上で、TCO (Total Cost of Ownership) を考慮したバランスの良いシステム投資を行っていく必要がありますし、健全な経営を支えるためのアプリケーションやデータの利活用にも目を向けていきたいと考えています。

良質な医療や介護を効率良く効果的に提供できるよう、また、働きやすい環境作りにむけて、現場の皆様に寄り添えるIT部門を目指していきたいと思っています。

JCHOグループの最適IT基盤確立に向け、微力ながら尽力したいと考えておりますので、皆様方のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。



IT担当理事

さとう ひでのぶ
佐藤 秀暢



医療・看護・介護・地域包括
ケア担当理事

たなか さくら
田中 桜



北海道・東北地区担当理事

むらかみ えいいち
村上 栄一

4月から医療・看護・介護・地域包括ケア担当理事を務めております。出身は「うどん県」高松市で、2000年に滋賀医科大学を卒業し九州大学小児外科に入局し、臨床、研究、教育等に従事しました。2012年に厚生労働省に医系技官として着任し、難病対策、障害者施策、母子保健施策等を担当し、原子力規制庁に出向後、原子力災害時の医療体制整備や医療班長として危機管理等に従事しました。その後、環境省環境リスク評価室長としてエコチル調査の13歳以降の展開について検討会報告書を取りまとめました。5歳児の母でもあり日々綱渡りの毎日で、周りの方々のお蔭で業務に従事できていることを感謝いたします。

先日、医療安全の会議で久々に現場の様子を垣間見て、臨床に携わっていた頃の様々な記憶が蘇りました。ずいぶん昔ですがあらゆる規模の関連病院に日当直に行き、子どもから高齢者まで、急性期から慢性期まで患者さんを診ておりましたので、当時の経験をいかしつつ皆さまに寄り添い、JCHO病院が地域で必要とされる病院としてあり続けられるよう精進して参ります。皆さまの声を伺うためにできるだけ病院に足を運ばせていただきたいと思います。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

4月より北海道東北地区の担当理事を拝命しました仙台病院の村上栄一です。仙台病院の院長としては4年目に入ります。同地区には北海道の3病院と東北の4病院を合わせた7病院があります。地区内には、少ない医師数の中で院長の“病院を守っていくという執念”にも似た努力によって何とか持ちこたえている病院もあります。院長が倒れたら一気に経営破綻するのではと危惧しているところなんです。このような病院の涙ぐましい努力をきちっと評価して頂けるように、本部にも働きかけながら、病院間の交流がスムーズに行われるお手伝いできればと考えております。

各病院の置かれた地域の状況は異なり、一律の方向性では無理がありますが、チョット視点を変えて、知恵を絞れば、アドバンテージになりうるものが見えてくるのではと思っています。敬愛するホンダの創始者・故本田宗一郎氏の「需要がそこにあるのではない。我々が需要を作り出すのだ!」という言葉は医療界にも通じるものだと思います。そして、それが“地域に無くてはならない病院”への道でもあると確信しております。和気あいあいとエネルギー溢れる地区をめざし、微力ながら努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

2022年4月に関東地区の地区理事を拝命いたしました埼玉メディカルセンターの吉田武史と申します。今年度は、尾身茂前理事長が退任されたあと4月より山本修一新理事長が就任され、JCHOも新たなスタートを迎えました。今年は、コロナウイルスの感染が去った後の病院経営をコロナ前に戻すことを各病院は真剣に考えなくてはいけない時期に来ていると思います。現状では、国、自治体からの補助金で収支が何とか黒字の病院が多いですが、コロナ専門病棟、空床が一般床に戻り、入院患者さんで病床をうめること、減少した外来患者さんを増やすことが課題です。また、診療報酬改定により地域包括ケア病棟の条件が厳しくなりました。これも早急な対応が必要です。各病院の現状を院長先生にお聞きして対策を立てていきたいと思っています。関東地区は16病院あり地区としては全国で1番病院数が多く、大病院も多いです。今までは、木村健二郎前理事が大変うまくまとめており、自分にどれほどできるか不安ですが、皆様のお力をお借りして頑張っていきたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。



関東地区担当理事

よしだ たけし
吉田 武史

このたび4月1日付けで、近畿四国地区担当理事を拝命いたしました。私は2020年4月に大阪病院に院長として赴任しJCHOの一員となりました。新型コロナウイルス感染拡大の中での赴任で、この2年間、全国屈指の感染状況の大阪市内で新型コロナの対応に追われました。

一方で、大阪病院は予想以上に深刻な問題を抱えています。その舵取りをし、職員の意識や行動を変え、実績改善を計っているところです。まだJCHOや近畿四国地区の11病院を十分に理解しているとは言えない状態ではありますが、地区担当理事を拝命した以上は、JCHOの発展に少しでも寄与できるよう微力ながら力を尽くす所存です。

近畿四国地区の病院を見ますと、それぞれに課題があるようです。同じ地域医療に貢献と言っても、病院の規模も、提供する医療も、内部環境・外部環境も異なります。JCHOの各病院が、地域の期待に応え、安心して暮らせる地域づくりに貢献するには、組織間・組織内のコミュニケーションとそれぞれの状況に応じた新しい医療ニーズの開拓が必要になります。皆様の忌憚のないご意見を伺い、一緒に考え、歩んで参りたいと思います。



近畿四国地区担当理事

にしだ としろう
西田 俊朗

新任院長の挨拶



病院長 5ヶ所目です

千葉病院
うち の なお き
内野 直樹

4月1日付で千葉病院長を拝命しました。自身5か所目の病院長となります。「辞める辞める詐欺」のように何時までも無為徒食で禄を食んでいます、多少でもお役に立ちたいと思います。職員が働きやすい職場、誇りを持てる職場を作れたら病院は自然に良くなって自立経営と医療の質が両立出来るものと確信します。

以前から申し上げていますように「老害」という事実は確実に存在しますし、「蛇蝎のごとく忌み嫌われて」という言葉にも真実があります。皆様におかれましては今しばらく私の存在をお許し願いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



建替えに向けて 職員一丸となって

星ヶ丘医療センター
ほそ の のほろ
細野 昇

4年前に大阪病院より整形外科部長として異動し、このたび院長を拝命した細野 昇です。当院は前身の星ヶ丘厚生年金病院時代から地域との絆が深く、地域住民、診療所、病院、施設、行政から厚い信頼を得てきました。築50年が経つ本館は、耐震基準を満たしておらず建替えが急務となっています。そのためには、地域医療・地域包括ケアの要として良質な医療を提供しつつ収益状況を改善する必要があります。建替えに向けて職員一丸となって邁進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



地域の医療ニーズに 機動的に対応

山梨病院
さ と う ただし
佐藤 公

山梨病院院長就任に際してご挨拶申し上げます。2020年4月に前任の山梨大学医学部消化器内科病院教授・光学医療診療部部长より、消化器病センター長、院長補佐として赴任し、以後消化器領域を中心とした診療に従事してまいりました。当院では新型コロナウイルス感染が拡がる中、診療以外にもワクチン接種から健康診断業務、県内外の医療機関への新型コロナウイルス感染症診療の応援まで、病院職員が一丸となって対応しています。今後も質の高い医療を提供するとともに、地域の医療ニーズに機動的に対応できる組織でありたいと考えます。どうぞご指導の程お願い申し上げます。



健診部門の整備により 未病にも対応

東京高輪病院
やまもと じゅんじ
山本 順司

この度、東京高輪病院長に着任いたしました。東京大学昭和56年卒業、専門は消化器外科（肝胆膵）です。当院は前院長指揮のもと、高輪地区で「求められる医療」を追及し成長してきました。高度専門医療センター、大学附属病院へのアクセスが良いため、地域包括ケア病床を備え、医療連携・患者支援センター、訪問看護ステーションを設置することで、大規模総合病院との後方連携と周辺の診療所や介護施設との相互連携を通して、地域医療に貢献してきました。大規模再開発など区中央部での人口増が予想される地区に立地することを踏まえ、健診部門の整備を行い、「未病」の観点からも地域にさらに貢献してまいりたいと考えております。また、職員が働き甲斐を感じられる組織を目指しております。今後ともご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



地域基幹病院として 安全・安心な医療を

三島総合病院

まえ だ まさと
前田 正人

静岡県は医療的に過疎地で、当院のある東部地域においてはさらに顕著です。当院は中小規模の病院ではありますが地域の基幹病院として近隣の医師会・大規模病院さらには行政とも連携を取りながら安全・安心な医療を提供できるよう努めてまいります。加えて多職種の連携を密にして説明責任も果たしながら地域から信頼される病院を目指していくつもりです。また包括ケア病棟・老健施設及び健診センターも含めて健全な運営と共に安定した経営を図りたいと考えています。引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。



2023年度末の 新病院開設に向けて

桜ヶ丘病院

もり のりこ
森 典子

桜ヶ丘病院は2022年2月に発生しましたコロナの大クラスターで名をはせてしまいましたのでご存知かと思いますが、その折にはJCHOの各病院からの応援をいただき、感謝するとともに、JCHOという組織の大きさを実感しています。このコロナ大禍の後、通常医療の巻き返しが道半ばの状況で、内野直樹前院長からバトンをいただきました。新病院（清水さくら病院）の開設を2023年度末に控え、新米院長ではありますが、経営・運営に頑張っており取り組んでいきます。



医療圏唯一の 公的基幹病院としての 責任

福井勝山総合病院

すとう ひろゆき
須藤 弘之

このたび、福井勝山総合病院の院長を拝命した須藤です。私は6年前、福井大学医学部消化器内科より副院長として赴任し、内視鏡検査・治療を中心に消化器内科診療を充実させるとともに、ここ2年はICDとして新型コロナウイルス感染対策を統括して参りました。奥越医療圏唯一の公的基幹病院かつ感染症指定医療機関として、最大限の感染対策を講じつつ、疾病予防から急性期医療、回復期リハビリ、介護、在宅医療まで、住民の方々に良質で安心な医療・介護を提供し、福井県の医療のさらなる発展のため全力を尽くす所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



京都府立医大との 強固な連携のもとに

京都鞍馬口医療センター

みずの としき
水野 敏樹

2022年4月院長に就任しました水野敏樹です。京都鞍馬口医療センターは鞍馬口の病院として地域の方々から信頼され、愛されてきた病院です。これまでの伝統を引き継ぎ、安心の地域医療を提供できる病院を継続したいと存じます。2025年の超高齢化社会を目の前にして、高齢化による様々な医療ニーズの変化が生じ、新たな新型コロナウイルス感染など新たな問題も生じてきています。包括協定を提携した京都府立医科大学とも連携し、これら新しい問題にも常に対応し、地域の皆様のニーズに答えられる病院でありたいと存じます。

「役職者としてのあるべき姿」 ～ 部署間の関係性向上の場の創成～

大和郡山病院
診療放射線技師長 中尾 哲

大和郡山病院で、すべての職員を対象に業務改善提案を募集したところ、80を超える提案が集まりました。その中で、久門看護部長と共に提案した「職長を含めた各部署の役職者とのチームワーキング」が取り組むべき課題として選ばれました。

このテーマで取り組もうとした理由は、経営改善・組織改革には部署間の連携と役職者の役割遂行に関係があると考えていたからです。今回の提案制度を活用して、経営改善に向けて、役職者全員がリーダーシップを発揮して取り組むことを目標に掲げました。

チームワーキングの目的

組織とは「共通の目標に向かって協働するチーム」と言われます。

病院は専門性に優れた多職種で構成されていることで、患者を中心としたチーム医療への力を発揮することが可能になります。その反面、各職種の専門性があるために、自分たちの権限や利害に固執する傾向があります。意見や感情の衝突や対立が生じて協力関係に至らず、組織全体の利益や効率性が損なわれるような問題も発生します。

その原因のひとつとして、それぞれの「思い」はあるが、職種間や部署間のつながりを構築するための「場」が存在しないということが考えられます。「場」がないことで、「自分の思い」や「相手の思い」を理解するための機会が失われ、結果のみに翻弄されてしまいます。協働そのものから遠ざかり、結果に対して他責や他人事であり続けることで「対立」が生まれてしまいます。このような負の連鎖を断ち切ることが必要だと考えます。

今回のチームワーキングの目的は、役職者や部署間における関係性の質を向上させ、「役職者としてのあるべき姿」を全員で積極的に話し合うことです。

チームメンバーの構成

医師を除き、全ての職種において役職を与えられている51名を対象とし、メンバーが発言しやすいように、異なる職種を分散させ5～6名のチームに編成しています。

「いい職場・いい環境・いい人間関係を構築するには」をテーマとし、取り組むべき課題についてコミュニケーションと役職者としての2つの観点からチームワーキングを行いました。

注意点として、相手の考えを否定しないこと、相手の話に耳を傾けること、普段話す機会がないメンバーと自分自身の思いや提案などを活発に対話してもらうことを条件としました。

第1回目

現況の把握と課題の発見



組織に属する上で、私たちはさまざまな場面で対立することがあります。それらはコミュニケーションの問題とも指摘されることが多いですが、古くから継続される習慣や組織文化やしがらみといった負の側面が強く現れていることが少なからずあると考えます。

組織や組織管理についての講義（筆者）を行い、ファシリテーター（看護部長）を交えながら、テーマに沿ってワーキングを行いました。参加者からは「他職種の方と話ができてよかった」などの意見が多くありました。異なる職種との対話によって、今まで気付いていない問題等を発見するなど、各チームが熱心に取り組み、病院の課題について多くの視点から有益な意見が出されました。



第2回目 意思決定

前回のチームワーキングで、各チームから出された病院の課題について、現状とあるべき姿とのギャップ、あるべき姿に近づけるためのマネジメント能力、そこへ導くためのリーダーシップについて講義を行いました。

課題として挙げられた一部には、他責や他人事となるようなネガティブな意見が含まれたものもありましたが、これらを共有することによってメンバーが内省するきっかけとなり、改めて役職者が求められる責務や役割、やるべき課題が認識できたのではないかと考えます。



前回以上に、積極的な対話や課題の設定について熱く意見を述べ合っていたことが印象的でした。

今後に向けて

役職者は経営層の意思決定を支える立場でもあり、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を適切に管理することが求められます。特に「ヒト」のマネジメントは、最も大切な経営資源でもあり、組織の目指す方向へ向かうには「ヒト」の働きは必要不可欠です。

セクショナリズムといった壁を壊し、今までとは異なる新しいつながりが私達には必要と考えます。

役職者チームワーキングによって、「対立」から「共生」、「議論」から「対話」に変化し、内外環境の変化に適応できる組織、

第3回目 発表

各グループの取り組むべき課題について、コロナ禍でもありポスター形式で掲示することとしました。職員のすべてに知ってもらいたい、そして職員の皆さんが少しでも協力してもらえればと考え、会議室に掲示しました。

各チームのモチベーション向上のために、発表内容について職員からの評価を頂けるように工夫し、順位付けではなく、各チームの発表内容にふさわしい名前の賞を贈り、表彰することにしました。既に取り組んでいるチームもあれば、これから取り組むチームもあります。

今、皆さんがこの記事を読んでいる頃には、大きな成果が表れているチームもあるかもしれません。継続することは大事なことですが、目標を見失うことがないようにチームで取り組んでいけたらと考えます。



全員がリーダーシップを執れる組織、互いに必要とする組織へ進化し続けていきたいと考えます。

そして「関係性の質」を改善することによって、「結果の質」に翻弄されない、新しい組織文化が構築されることを期待します。

これからも「場」を創ることで、経営改善だけでなく、未来に向けた新しい創造や持続可能な組織につながることを楽しみにしています。

1 「骨粗鬆症センター」の 立ち上げについて

船橋中央病院 整形外科医長 山下 正臣

当院では2018年4月より大腿骨近位部骨折と椎体骨折で入院した方に骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS) を開始しました。職員が業務に慣れた2020年4月より上肢の骨折(橈骨遠位と上腕骨近位)を追加し、4つの骨折を対象に行っております。OLSとは、日本骨粗鬆症学会の提唱した概念で骨折患者のみでなく一次骨折予防も活動に含まれ、当院での骨折患者に対する活動より少し広い意味になります。実際、我々の活動は、脆弱性骨折に対し「次の骨折」を予防する二次骨折予防となり1990年代に英国で開始された骨折リエゾンサービス (Fracture Liaison Services: FLS、狭義のOLS) になります。

2021年度初め院長面談の際に、山口院長から国際骨粗鬆症財団よりGold levelの評価を受けていることを受け、「骨粗鬆症センター」の立ち上げ準備をするよう仰せつかりましたので、「骨粗鬆症リエゾン委員会」に持ち帰り準備を開始しました。

センターでは、通常の整形外科診療と差別化を図るため、二次骨折予防でなく「最初の骨折」を防ぐ一次骨折予防を目的とした場所にしたいと考えました。何故なら、センターで骨折前の骨粗鬆症患者に対し介入することで、病院全体として日本骨粗鬆症学会の提唱した広義のOLSを目指したからです。

当センターでは、OLSの経験を活かし、多職種で連携しサービス提供を行います。医師の診察において、骨密度、血液、筋量を評価し治療方針を決定し、口腔外科で骨粗鬆症治療の際に問題となる口腔衛生状態を評価します。骨粗鬆症治療薬は数多くありますが、単に薬を服用するだけでは不十分ですので、食事や運動習慣などを見直す契機になるよう、薬と食事(栄養)、運動に関する集団教室を行います。以上を、骨粗鬆症センター初回受診時の内容としています。さらに必要と判断された方には個別に服薬指導、栄養指導、運動指導を行います。

対象としては、一次予防ですので「骨折のない方」になり、閉経後早期の女性や骨粗鬆症未治療または中断したままの方、ステロイドを服用している方など多岐にわたります。特に、内科や婦人科には通っているけど、「わざわざ整形に行ってもいいかな」と思っているような方にぜひ一度お越しいただければと考えております。

センターでは、診断と教室が済み、治療方針を決定し初回投薬で副作用など問題がないことを確認後、紹介元の施設に治療継続をお願いすることになっています。治療を行い半年くらいの経過で効果判定ができればと考えております。

なお、センターの受診は「教室」の定員もありますので完全予約・紹介制としています。また、センターに受診された方が骨折した場合には、整形外科で診療を承ります。

まだ、始めて間もない上、近隣施設への案内も不十分であるため「骨粗鬆症センター」の認知度が低く、今後はいろいろな形で広めていければと考えております。

2021年10月開設

独立行政法人 船橋中央病院
地域医療機能推進機構

骨粗鬆症センター

骨粗鬆症は、骨の強さが低下して骨折しやすくなる疾患です。骨折は日常生活動作を困難にし、生活の質を低下させ、ご本人にもご家族にも負担となります。当センターでは骨折前に介入することで一次骨折の予防に取り組みます。

みなさんの大切な骨をチームで応援します！

診断と治療方針の決定
整形外科医師診察・歯科医師検診による適切な治療方針を提案します。

- 骨密度測定
- 血液検査
- 整形外科医師診察
- 歯科医師検診

健康作り コツコツ教室
「食事・栄養・運動」についての正しい知識を伝えます。

- 骨粗鬆症のお薬について(薬剤師)
- 骨と栄養(栄養士)
- 年齢に負けない体力づくり(理学療法士)

診療時間: 2021年10月～
毎週月曜日 午後
(完全予約制)

ご予約・お問い合わせは
船橋中央病院 地域連携室
TEL 047-433-2111

骨粗鬆症センター開設時の近隣施設への案内に同封したポスター(縮小版)

2.

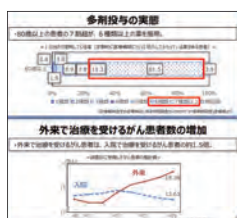
薬剤部長会議 (TV会議)を開催して ～薬剤師を取り巻く 環境変化に対応していく～

東京高輪病院薬剤部長
本部医療部医療課薬事専門職併任

片山 歳也



現在、JCHO薬剤師は医療機関におけるチーム医療の進展、地域包括ケアシステムの一員としてのさらなる対応が求められています。このような変化に対応するには、薬剤師の資質向上の推進や薬剤師の地域偏在に伴う薬剤師確保などの課題解決が挙げられ、これらの課題解決に向けて、2021年12月に薬剤部長会議を開催したので報告します。



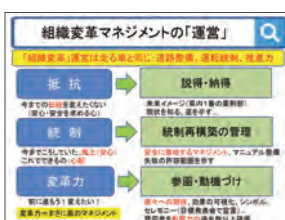
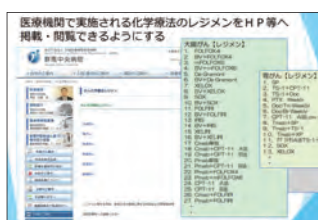
これからの薬剤師・薬局と製薬業界には
こうなっていくと思います(私見です)

「患者さん」には
患者さんが安心してより良い薬品を使えるようになるための「くすりのアドバイザー」になって欲しいと思います。
(どこにいても)薬剤師も製薬・育薬の重要な担い手です!

「製薬業界」には
分野を超えたコラボレーションも含めて「薬品の品質を食料コストで実用化」して欲しいと思います。
そして、全てのステークホルダーが協力して「患者さんの期待に応える医療ソリューション」を提供して欲しいと思います。

日本製薬工業協会専務理事森和彦先生を招聘し、『薬機法改正を踏まえJCHO病院薬剤師に期待すること』では、優れた医薬品、医療機器等の安全・迅速・効率的な提供について、薬剤師が取り組むべき事項を学ぶことができました。

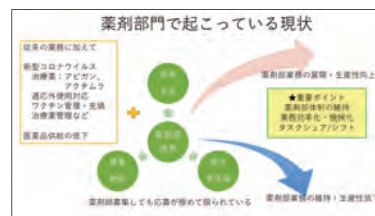
本部医療課薬事専門職片山からは、本部組織における医療課薬事専門職配置に関することや毎月の薬事専門職Web会議の報告があり、薬事専門職同士の情報共有の機会ができたことが報告されました。



薬剤部長のマネジメント能力向上のために、外来がん化学療法に関する地域連携(群馬中央病院薬剤部長鈴木氏)、医薬品情報の活用(熊本総合病院薬剤部長藤井氏)の発表では、地域連携推進と医薬品情報提供活動を見直す機会となりました。

異動者を受け入れる土壌づくり
プラスの効果に目を向けて

- 異動者を最大限活かす方法
- 新しい風を受け入れる心構え
- 滞っていたものが動き出す
- 当たり前が変わる



薬剤師の地域偏在、病院薬剤師不足といった問題解決に向けて、各地区事務所薬事専門職の薬剤師募集に関する発表(北海道東北:井藤氏、関東:伊藤氏、東海北陸:西上氏、近畿四国:辻川氏、九州:藤井氏)を行い、各地区における薬剤師確保における課題を共有するとともに、今後の各地区における対策のヒントとなりました。

最後に全国薬剤部長会議開催にご理解を頂きました全国の薬剤部門長の皆様、終始、支援頂きました本部医療部の皆様にも感謝申し上げます。

北海道病院におけるYouTubeの活用事例について

北海道病院

総務企画課 経営企画係長 土田 駿介

▶ 背景

当院では、地域講演会として職員が地域住民の方々に対して健康にまつわる話を近隣の公民館などで毎月開催していました。地域講演会は長年行われ、地域住民の方々にも親しまれてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、休止することになりました。そこで地域講演会と同じような機会を作れないかとの思いで、2021年3月に病院公式YouTube「JCHO北海道病院 健康ライフちゃんねる」を開設しました。



▶ 内容

動画の内容については、普段からよく耳にする疾患の解説や予防方法、健康増進につながる情報など幅広く身近なテーマを扱っています。専門用語を多用せず、わかりやすい言葉とイラストを活用して動画を作成することを心がけています。また一つの動画につき、5分～15分程度のコンパクトなものにすることで、より気軽に多くの方に見てもらえるような動画を作成しています。



▶ 最後に

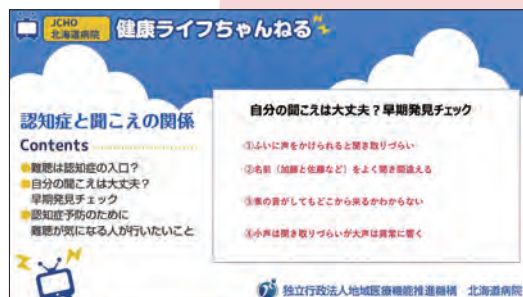
院内の先生方をはじめとした職員の皆様に快くご協力をいただき、動画作成を行うことが出来ました。今後も職種の垣根を超えて動画を作成し、地域住民の方々に役立つための情報を発信していきます。

▶ 活用事例

作成した動画については、YouTubeに配信するだけではなく、様々な活用方法を検討しています。たとえば実際に活用している方法としては、外来待合時間対策として、患者さんへチラシを渡し、空き時間に視聴してもらっています。

普段YouTubeを視聴しない方にも見てもらえるような取り組みとして、外来待合室のテレビで流しています。また病院ホームページにも配信している動画を視聴できる専用のページを作成し、シリーズ毎にまとめることにより、気になるテーマについて視聴しやすくしています。

これらの取り組みについては、患者さんの病気への理解が深まり、職員の説明が行いやすくなり、負担軽減にもつながっていくのではないかと考えています。



▶ 今後の展望

今後は、動画の再生回数を上げるための取り組みを行っていきたいと考えています。病院広報誌（JCHO北海道病院だより）や病院公式InstagramにもYouTubeの情報を掲載し、広く知ってもらう取り組みも重要であると考えています。まだまだ試行錯誤の段階ではありますが、当院と同様にYouTubeを活用している病院や活用を検討している病院等と、より多くの方に視聴してもらえるような取り組みについて意見交換等ができれば幸いです。

今後の配信内容について、身近なテーマでもあるアルコール依存に関する動画のシリーズの配信を予定しています。ご興味のある方はこちらも是非ご覧ください。

JCHO北海道病院公式YouTube

「JCHO北海道病院 健康ライフちゃんねる」



大阪病院におけるYouTubeを利用した 医療者向け公開講座

大阪病院 統括診療部長 島田 幸造

我々大阪病院では、毎年1月の地域医療連絡会で、近隣の医療機関様向けに医療セミナーを行ってきました。

しかし、Covid-19の感染拡大の影響を受けて2021年には開催を断念、

医療機関様に当院の取り組みをお知らせする機会を失ってしまいました。

その代替策として、2021年1月より統括診療部長指揮の下、地域連携室と医療情報室のスタッフが連携を取りながら、Webによる外部への情報発信をスタートしました。

当初はCisco社のWebex Meetingsを用いたライブ配信と、YouTubeによるアーカイブ放送の形をとっておりました。休診の近隣医療機関様が多い時間帯をターゲットに、木曜日の14時より20～30分の生配信及び同時録画、これを動画編集の後に、土・日の2日間でアーカイブ配信という流れを月に2回行っておりましたが、ライブ配信のリスクや演者となる医師の時間的制約を考慮し、2021年6月からは事前収録によるYouTube配信としました。

講座の内容については、当院の強みである経カテーテル大動脈弁置換術（通称TAVI）やコンピュータ・ロボット支援人工関節手術、乳がん・卵巣がんなどの女性疾患、小児科による子育て支援プログラムの紹介など、幅広い分野の医療機関様に興味を持ってもらえるよう検討しております。本講座は、対象が医療関係者ではあるものの、通常の学会発表とは異なり、専門外の分野の方も視聴することを想定した発表準備が必要となります。また、YouTubeへの投稿時には、動画の内容によって著作権侵害の警告や動画が削除されることもあるため、掲載資料には十分配慮する必要があります。このように、本取り組みには発表される各医師側の配慮・協力が特に重要となりますが、近隣医療機関様からは、「毎回視聴し、患者紹介の機会が増加した」とのお声や、「大阪病院さん、頑張っていますね」と新たな取り組みを始めたこと自体に評価をいただくこともあり、その成果を感じつつあるところです。

contents	
第1回 最新の大量がん治療～より患者様にやさしい治療を目指して	井出 義人 外科下消化器担当部長
第2回 上消化器外科の紹介～低侵襲から集学的治療まで	出村 公一 外科上消化器担当部長
第3回 心臓チームで取り組む経カテーテル大動脈弁置換術-TAVI	小笠原 延行 救急部診療部長 循環器内科診療部長
第4回 アブレーション治療の現場	三好 美和 循環器内科部長
第5回 急性期脳卒中の外科	風村 有紀 脳神経外科部長
第6回 急性期脳神経疾患の診療	山下 和哉 脳神経内科部長
第7回 3D技術を活用した最新の人工股関節	岡本 泰典 整形外科部長
第8回 3D技術を用いた人工股関節置換術	西川 昌幸 リウマチ科診療部長
第9回 遠隔性大腸炎治療 update	日山 智史 消化器内科部長
第10回 当院の若手消化器内科医師の内視鏡（胆道中心に）	澤村 真理子 消化器内科部長
第11回 遺伝性乳がんについて	大砂 陽子 乳腺内分泌外科部長
第12回 遺伝性卵巣がん症候群	大八木 知史 産婦人科 部長
第13回 放射線科で行うIVR	北山 敬明 放射線診断科IVR担当部長
第14回 ビンポイントにある体幹部定位放射線治療	西多 俊幸 放射線治療科診療部長
第15回 小児肺小細胞肺癌に対する縮小手術	岩崎 寛夫 呼吸器外科担当部長

さらに当院では、2021年度よりLINE、Instagram、Facebookによる患者様向けの発信をスタートしました。将来的には、これらSNSによる広報と本取り組みのノウハウを組み合わせることで、一般患者様向けの健康講座・市民公開講座といった取り組みも可能であると考えています。

Covid-19惨禍を経験し、病院はただ患者様が来るのを待っていれば良かったこれまでの状況から、病院における広報の重要性は大きくなりました。1人でも多く地域の患者様に利用していただけるよう、大阪病院はこれからも様々な取り組みを行っていきたいと思います。

JCHO大阪病院 公開医学講座

JCHO大阪病院では、各科の若手部長・医長らによる最新医学知識と当院での取り組みを、毎月2回、WEB上で無料配信しています。配信期間中はいつでもご覧いただけます。

2022年1月のテーマ 糖尿病治療とフットケア

第23回

糖尿病の合併症
"しめじ"と"えのき"について
～糖尿病腎症・糖尿病性腎臓病（DKD）を中心に～

糖尿病・内分泌内科診療部長
馬屋原 豊

配信期間 2022年1月13日（木）14時～1月16日（日）23時59分

第24回

JCHO大阪病院フットケア
チームの紹介

皮膚科診療部長
竹原 友貴

配信期間 2022年1月27日（木）14時～1月30日（日）23時59分

ご視聴方法

YouTube チャンネル名「JCHO大阪病院-医療機関様向け」
URL: https://www.youtube.com/channel/UC_Iah0JAUJzm7ddUghjiFAA

QRコード
1. を読取る

YouTube上の該当コン
テンツが再生されます

チャンネル登録していただく
次回からQRコードの読み取り不要、
簡単に視聴いただけます

講座毎にメールで
URLを受け取る

メールでの案内をご希望の方は
メールでお申し出ください
chiki@osaka.jcho.go.jp

タイトル「公開講座案内表」
本文「医師様宛へ、ご活用」
とご記入ください

来月の配信予定

バックナンバー配信予定

配信日時・コンテンツについては
後日お知らせいたします。

JCHO大阪病院公式 facebook



北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618	北海道札幌市豊平区中の島1条 8-3-18	Tel. 011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618	北海道札幌市厚別区厚別中央 2 条 6-2-1	Tel. 011-893-3000
	登別病院	059-0598	北海道登別市登別東町 3-10-22	Tel. 0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281	宮城県仙台市泉区紫山 2-1-1	Tel. 022-378-9111
	仙台南病院	981-1103	宮城県仙台市太白区中田町字前沖 143	Tel. 022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851	秋田県能代市緑町 5-22	Tel. 0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501	福島県二本松市成田町 1-553	Tel. 0243-23-1231

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143	栃木県宇都宮市南高砂町 11-17	Tel. 028-653-1001
	群馬中央病院	371-0025	群馬県前橋市虹雲町 1-7-13	Tel. 027-221-8165
	さいたま北部医療センター	331-8625	埼玉県さいたま市北区宮原町 1-851	Tel. 048-663-1671
埼玉	埼玉メディカルセンター	330-0074	埼玉県さいたま市浦和区北浦和 4-9-3	Tel. 048-832-4951
	千葉病院	260-8710	千葉県千葉市中央区仁戸名町 682	Tel. 043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556	千葉県船橋市海神 6-13-10	Tel. 047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606	東京都港区高輪 3-10-11	Tel. 03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543	東京都新宿区津久戸町 5-1	Tel. 03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073	東京都新宿区百人町 3-22-1	Tel. 03-3364-0251
神奈川	東京城東病院	136-0071	東京都江東区亀戸 9-13-1	Tel. 03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035	東京都大田区南蒲田 2-19-2	Tel. 03-3738-8221
	横浜中央病院	231-8553	神奈川県横浜市中区山下町 268	Tel. 045-641-1921
山梨	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585	神奈川県横浜市長谷区釜台町 43-1	Tel. 045-331-1251
	相模野病院	252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-2-30	Tel. 042-752-2025
	湯河原病院	259-0396	神奈川県足柄下郡湯河原町中央 2-21-6	Tel. 0465-63-2211

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115	富山県高岡市伏木古府元町 8-5	Tel. 0766-44-1181
	金沢病院	920-8610	石川県金沢市沖町ハ 15	Tel. 076-252-2200
	福井勝山総合病院	911-8558	福井県勝山市長山町 2-6-21	Tel. 0779-88-0350
岐阜	若狭高浜病院	919-2293	福井県大飯郡高浜町宮崎 87-14-2	Tel. 0770-72-0880
	可児とうのう病院	509-0206	岐阜県可児市土田 1221 番地 5	Tel. 0574-25-3113
	桜ヶ丘病院	424-8601	静岡県静岡市清水区桜が丘町 13-23	Tel. 054-353-5311
静岡	三島総合病院	411-0801	静岡県三島市谷田字藤久保 2276	Tel. 055-975-3031
	中京病院	457-8510	愛知県名古屋南区三条 1-1-10	Tel. 052-691-7151
	四日市羽津医療センター	510-0016	三重県四日市市羽津山町 10-8	Tel. 059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846	滋賀県大津市富士見台 16-1	Tel. 077-537-3101
	京都鞍馬口医療センター	603-8151	京都府京都市北区小山下総町 27	Tel. 075-441-6101
	大阪病院	553-0003	大阪府大阪市福島区福島 4-2-78	Tel. 06-6441-5451
京都	大阪みなと中央病院	552-0003	大阪府大阪市港区磯路 1-7-1	Tel. 06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511	大阪府枚方市星丘 4-8-1	Tel. 072-840-2641
	神戸中央病院	651-1145	兵庫県神戸市北区惣山町 2-1-1	Tel. 078-594-2211
大阪	大和郡山病院	639-1013	奈良県大和郡山市朝日町 1-62	Tel. 0743-53-1111
	玉造病院	699-0293	島根県松江市玉湯町湯町 1-2	Tel. 0852-62-1560
	りつりん病院	760-0073	香川県高松市栗林町 3-5-9	Tel. 087-862-3171
兵庫	宇和島病院	798-0053	愛媛県宇和島市賀古町 2-1-37	Tel. 0895-22-5616
	高知西病院	780-8040	高知県高知市神田 317-12	Tel. 088-843-1501

九州地区

山口	下関医療センター	750-0061	山口県下関市新地町 3-3-8	Tel. 083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522	山口県周南市孝田町 1-1	Tel. 0834-28-4411
	九州病院	806-8501	福岡県北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1	Tel. 093-641-5111
福岡	久留米総合病院	830-0013	福岡県久留米市榑原町 21	Tel. 0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001	福岡県直方市大字感田 523-5	Tel. 0949-26-2311
	佐賀中部病院	849-8522	佐賀県佐賀市兵庫南 3-8-1	Tel. 0952-28-5311
佐賀	松浦中央病院	859-4594	長崎県松浦市志佐町浦免 856-1	Tel. 0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501	長崎県諫早市永昌東町 24-1	Tel. 0957-22-1380
	熊本総合病院	866-8660	熊本県八代市通町 10-10	Tel. 0965-32-7111
長崎	人吉医療センター	868-8555	熊本県人吉市老神町 35	Tel. 0966-22-2191
	天草中央総合病院	863-0033	熊本県天草市東町 101	Tel. 0969-22-0011
	南海医療センター	876-0857	大分県佐伯市常盤西町 7-8	Tel. 0972-22-0547
熊本	湯布院病院	879-5193	大分県由布市湯布院町川南252	Tel. 0977-84-3171
	宮崎江南病院	880-8585	宮崎県宮崎市大坪西 1-2-1	Tel. 0985-51-7575

JCHO「理念」

我々全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

お知らせ

JCHOニュースはこれまでのデザインから
リニューアルしました！



心機一転、JCHO職員の皆様にさまざまな情報をお届けできるよう、
広報文書課一丸となり頑張っております。
また、原稿は常に募集しておりますので、掲載してほしい取組みなどありましたら、
いつでも広報文書課までご連絡ください。
今後ともJCHOニュースをよろしくお願い申し上げます。

地区事務所

本部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 3F
北海道東北地区事務所 〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院3F
関東地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F
東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋南区三条1-1-10 中京病院健康管理センター内
近畿四国地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78大阪病院別館3F
九州地区事務所 〒866-8662 熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟4F

JCHOニュースアーカイブ
URL
https://www.jcho.go.jp/jchonews_archive/



JCHO NEWS

Japan Community Health care Organization News



職場チームによる

お褒め状



業務改善の取り組み



02 【Information】 第7回 JCHO地域医療総合医学会の開催準備進む

一般社団法人地域医療機能推進学会 事務局長 中村 仁

03 山本新理事長 就任のご挨拶

04 理事・特任補佐・地区担当理事による
令和4年度の抱負06 【特集】
職場チームによる業務改善の取り組み薬剤部から病院経営に貢献したい！
～院長に褒められたくて2020～

群馬中央病院 主任薬剤師 新木 美枝

07 愛は、病院を救う ～お金があると愛が潤います～
本当に愛が潤い始めています。

桜ヶ丘病院 看護部長 岩崎 厚子

08 外来診療科受付の集約化に向けた取り組み
～医師の働き方改革推進への道～

星ヶ丘医療センター 経理課長補佐 福永 幸子

09 電子カルテ導入に伴う外来紙媒体の統一化および
患者満足度向上への取り組み

下関医療センター 副看護師長 吉田 智子

10 地方都市におけるJCHO主導の新型コロナウイルス感染症の
終息に向けた組織横断的診療戦略

熊本総合病院 看護部 副看護部長 古賀 敦子

11 JCHO 山梨病院 2020年度経営改善プロジェクト
～TQM (Total Quality Management) 活動の試み～

山梨病院 地域医療連携室係長 中村 成一郎

12 【Topics】
新型コロナウイルス感染症の
臨時医療施設での薬剤師活動を今後につなげる
～JCHO法第21条による 薬剤師広域派遣より～東京高輪病院薬剤部長
本部医療部医療課薬事専門職併任 片山 歳也

14 【広報アラカルト】 病院食の取り組み

京都鞍馬口医療センター 栄養管理室長 田川 麗子

熊本総合病院 副栄養管理室長 白坂 亜子

大阪病院 副栄養管理室長 塩田恵理都

人吉医療センター 副栄養管理室長 中村 利枝

16 【JCHO GROUP】 全国病院MAP

第7回JCHO地域医療総合医学会の
開催準備進む一般社団法人地域医療機能推進学会
事務局長 中村 仁

地方開催の第1回目

一般社団法人地域医療機能推進学会（山本 修一 理事長）では、『第7回JCHO地域医療総合医学会』を2022年10月21日(金)・22日(土)に『熊本城ホール（熊本市）』を会場とし、会長のJCHO熊本総合病院 島田 信也院長のもと、現地開催に向け現在、鋭意準備を進めております。



本当に参加してよかった JCHO学会 in 熊本

メインテーマを「ウィズウイルス時代の『新しい医療と地域づくり』」とし、プログラムは、JCHOにおける喫緊の課題や取り組み等をテーマとしたシンポジウムや講演とともに、JCHO職員の皆様から応募いただいた541題の一般演題（口演発表・ポスター発表）を併せると、本学会史上最大規模の構成です。さらに、特別ゲストには、わが国を代表する歌手であり、熊本市親善大使として震災後の復興に精力的にご活動されている《石川さゆりさん》をお招きします。ぜひ、阿蘇・天草・熊本城といった日本でも屈指の自然と文化があり、山海の美味しい食文化もある熊本の地にお越し頂きますよう、心からお待ちしております。

主なプログラム

- 石川さゆりトーク&コンサート
- 会長講演「失敗、失敗、また失敗」
【演者】島田 信也 会長
- 会長企画「私と感染症との闘い」
【演者】尾身 茂 公益財団法人結核予防会 理事長／JCHO名誉理事長
- 教育講演「病院発展の鍵となるリーダー育成」
【演者】吉田 直矢 熊本大学病院 特任教授
- 継続テーマシンポジウム(特定行為研修、事務職のマネジメント、地域医療ネットワーク)
- シンポジウム(職場づくりのコミュニケーション、働き方改革、医療安全、総合診療医)
- 部会企画セッション(看護・臨床検査・栄養・放射線)
- 一般演題(口演発表328演題、ポスター発表213演題)
- ランチョンセミナー、モーニングセミナー等

プログラムの情報は随時HPでご案内してまいりますのでご確認ください。

学会ホームページ <https://www.jchs.or.jp/jcho2022/>

【訂正とお詫び】

広報誌「JCHO NEWS Vol.33」掲載内容の一部訂正について

広報誌「JCHO NEWS Vol.33」の掲載内容について一部誤りがありましたので、下記の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。ホームページの「JCHO NEWS Vol.33」は正しい内容に訂正済です。

■P3

「京都市立医科大学と京都鞍馬口医療センター双方の医療機能を生かした効率的な医療連携」の

【誤】 2021年3月26日 ➡ 【正】 2021年11月26日

■裏表紙

「施設一覧 登別病院」の電話番号の誤り

【誤】 0143-84-2165 ➡ 【正】 0143-80-1115

山本新理事長 就任のご挨拶

本年4月より新たにJCHO理事長に就任しました山本修一です。

尾身前理事長をはじめ皆様とはこの1年間ご一緒させていただき、多くを学ばせていただきました。コロナ後の病院経営は、より一層厳しくなると予想されます。発足して8年というまだまだ若いJCHOの舵取りをどうするか。厳しい現実に向き合いつつ、27,000人からなるこの巨大な全国組織をさらに発展させるべく決意を新たにしています。

簡単な自己紹介をいたします。私は1983年に千葉大学を卒業後、眼科医として網膜硝子体手術を専門に行ってきました。アメリカ留学やいくつかの大学病院での勤務を経て、2003年より千葉大学病院の眼科教授に就任し、副病院長を7年、病院長を6年務めました。

病院長時代は決して順風満帆ではありませんでした。850床で3,000人以上の職員を抱える大学病院という複雑な組織の運営に加えて、赤字体質からの脱却や医療安全問題など多くの難題に直面し、病院経営の抜本的な改革も行ってきました。その時期に、厚労省や文科省で携わっていた仕事が縁となり、昨年からJCHOの理事に就任させていただいた次第です。こうした修羅場で得た知見が、少しでもJCHOの発展に役立てばと思っています。

私は、医療機関として一丁目一番地は、「良質な医療の提供」と「健全な経営」の両輪を回すということに尽きると考えています。良質な医療を提供しなければ患者さんは来ませんし、患者さんが来なければ収入は増えず、良い医療も行えません。私は、地域医療の要と位置づけられたJCHOの57病院すべてで、この原理原則を達成してほしいと願っています。『地域から信頼され、必要とされ続ける』ためにこれまでの慣習に縛られずに変革を続けていきましょう。そして、そのための支援こそが、本部の役割であると考えています。

各病院においては、日々の業務改善や現場力の底上げに加えて、視点を少し高くして、地域で発展するための中長期の成長戦略を立て、職員一丸となって未来の病院のありたい姿、あるべき姿に挑戦して下さい。院長をはじめとする病院幹部の皆さんのリーダーシップにも大いに期待します。

本部においては、現場の方々の努力を支援するため、経営強化本部や医療の質・安全管理委員会などによる対話型の経営支援を進めます。そしてリーダーシップをはじめとする各種教育や人材育成を充実させて、『教育のJCHO』を築いていく方針です。また、私や理事は、現場の声を聴くために精力的に病院に出向きます。「現場のかいた汗が報われる組織」、これをJCHOのモットーとしたいと考えております。

各病院と本部が一丸となって、「地域から信頼され、必要とされ続ける」、そして職員が「JCHO病院に勤めていてよかった」と思える『チームJCHO』を作り上げていきましょう。

皆さま、これからどうぞよろしくお願いいたします。



理事・特任補佐・地区担当理事による

理 事



理 事
(管理・労務・経営担当)

屋敷 次郎

6月29日付けで理事(管理・労務・経営担当)を拝命いたしました。出身は東京、育ちは鹿児島、平成2年に旧厚生省に就職し、東京のほか、岡山、広島など、様々な地での勤務を経てきました。

JCHO勤務となり、新型コロナウイルス感染症により大きく変わった医療へ対応しつつ、日本の医療の中でのJCHOのプレゼンス・ブランド・立ち位置を確固たるものとすべく、各拠点・現場の皆様の動きや想いに寄り添いながら、微力ながら職責を務めていきたいと考えております。

ご指導のほどよろしくお願い致します。



理 事
(医療・看護・介護・地域包括ケア担当)

田中 桜

4月に着任して早4か月目になりました。2022年度は、できるだけ多くのJCHO病院を訪問させていただき、立地場所、施設の状況、患者さんの様子等を肌で感じとり、職員の皆さま方から直接お話を伺うことで、課題を把握し改善に向けてお手伝いしたり、素晴らしい取り組みを横展開したりすることで、JCHO病院を通じた地域医療や地域の活性化に貢献させていただきたいと思います。

引き続きよろしくお願い申し上げます。



理 事
(病院経営・総合診療医担当)

楠 進

2020年4月からJCHO本部理事をつとめています。コロナ禍においてJCHO各施設には多大なご尽力をいただいたことに、心から敬意を表したいと思えます。まだコロナ対応は完全には終息していませんが、これからはコロナ後を見据えて各施設の強みと地域のニーズを的確に把握して、引き続き良質な医療を地域に提供することが求められます。皆様とともに知恵を絞っていききたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



理 事
(IT担当)

佐藤 秀暢

本年4月に着任したばかりですので、まずはJCHOグループが抱えているIT整備の課題や現場の要望を掴みたいと考えています。

その上で、地域医療ネットワークや遠隔読影サービスへの取り組み、JCHOネットの再構築などJCHOグループにとって有益なIT化の在り方を提案してまいります。

また、今までのやり方を見直しながら、現場で苦勞されている皆さんと近い目線に立って、ともにIT化を進めて行きたいと思えます。

特任補佐



特任補佐

徳岡 晃一郎

2022年度はJCHOが新しい体制になっての初年度です。コロナ後の難局を乗り切るスタートラインでもあります。そのカギは組織能力の一段のパワーアップであり、その原動力は、一人一人のやる気(Will)と能力(Skill)、そしてそんな人材を活かし、つないで集合知にするリーダーシップとコミュニケーションです。だれもがワクワクと楽しみながら、JCHO全体として質の高い効率的な医療が提供できるようにリーダーシップとコミュニケーションの側面から皆さんを支援していきたいと思えます。



特任補佐

内野 直樹

駿鳥は敵に襲われた際、地面に顔を埋めて「見ない 聞かない状態」になるとい話はどの根拠もない俗説である。

コロナ補助金が廃止される前に水膨れの状態から一日も早く脱する必要がある。(現状認識 課題克服) 地域医療構想という妖怪も再登場するはずだ。現実逃避は病院を減ぼす。

不肖内野も千葉病院で悪戦苦闘中であるが、全57病院が地域に必要な病院として生き残れるよう全精力を傾ける所存である。

実は駿鳥は強いらしい。JCHOも強くありたい。

令和4年度の抱負

地区担当理事



北海道東北地区担当理事
仙台病院院長

村上 栄一

私は岩手県奥州市（旧水沢市）の出身で、奥羽山脈を見ながら育ち、仙腸関節由来の腰痛をライフワークとしてきました。東日本大震災の際は仙台病院も大きな被害を受けました。しかし、数日後には全国の社会保険病院から救援物資や支援が届き、感動と感謝の涙が出てきたことを思い出します。そして、被害の大きかった南三陸町にも医療派遣ができました。この時ほど全国組織の有難さを痛感したことはありません。

北海道東北地区には7病院があり、少ない医師数の中で病院長の執念で成り立っている病院もあります。今後、地区内の病院長間で多くの患者さんを診察しています。協力し、やり繰りしながら、できない部分は本部にもお願いして、エネルギー溢れる仲の良い地区をめざしたいと思っています。



関東地区担当理事
埼玉メディカルセンター 院長

吉田 武史

私は1978年に慶応義塾大学を卒業し、消化器内科に入局しました。難病である「炎症性腸疾患」の患者さんを中心に現在も外来で多くの患者さんを診察しています。

座右の銘は「驕らず謙虚で分相応に」です。これは、学生時代、臨床実習に出る前の授業で、内科の教授から「患者さんも、そのご家族も、病院の職員もあなたたちより人生経験の豊富な方が多いので、謙虚さを忘れずに対応しなさい」と言われた言葉です。今までこの言葉をずっと忘れずに来たつもりです。

本年度は各病院とも「アフターコロナの病院経営」が大きな課題です。地区の全病院がよい方向に進むようかじ取りをしていきたいと思っています。



東海北陸地区担当理事
四日市羽津医療センター院長

住田 安弘

私が東海北陸地区担当理事に就任してから早や2年、本年再びこの重責を担当させていただくことになりました。年に一度は地域内の全病院へ出向き、毎回地域の新しい情報・現地の声を伺うことができ情報共有の重要さや楽しさを感じます。

本年度は診療報酬の改訂や、コロナ患者対応に係る補助金、さらには2024年春に開始される「医師の働き方改革」に向けたタスク・シフト/シェアの導入を含めた対応など課題が山積みです。

多くの問題についての議論と意見交換を行うために、2ヶ月に一度ほど「地区院長会議」開催を予定しています。院長先生間で情報収集・意見交換を行うことで地区内病院の活性化を図ります。忌憚ないご意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



近畿四国地区担当理事
大阪病院院長

西田 俊朗

私は1981年に大阪大学を卒業し、専門は消化器外科で、主に上部消化管～胃癌やGISTの診療と研究開発にあたってきました。2013年からは国立がん研究センターで勤務し2016年からは同中央病院で勤務しておりました。2020年4月にJCHO大阪病院に入職しました。

これら国の組織や病院には、それぞれにMissionやPurposeがあり、その実現のために各リーダーは適時適切に病院経営や組織運営を実行しなければなりません。

JCHOでも現在、本部を中心にポストコロナを見据えた中長期的な経営戦略の議論が急速に進んでいます。医療を通して地域社会に貢献しJCHOの使命を果たすため、社会や経済、政策の動向を捉え、近畿四国地区皆様方との十分な意見交換を通じて、各病院の運営基盤の安定化に尽力したいと思っています。



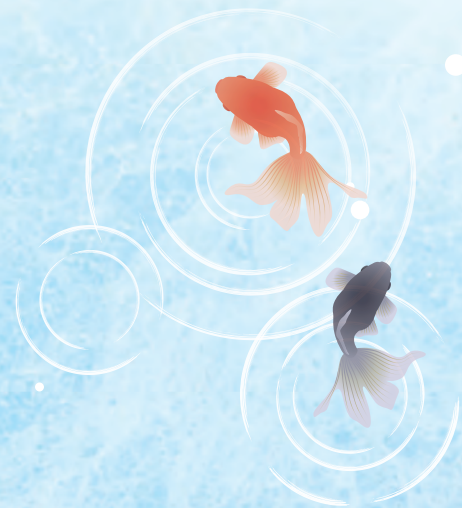
九州地区担当理事
熊本総合病院院長

島田 信也

九州地区の苦情係を務めております。本部の役員会等では九州地区の院長先生方のご意見を反映すべく発言を行ってきたつもりではありますが、未だ十分にお役に立っているとは言えません。ただ、補助金が入らないコロナ禍前までは、JCHO全体の黒字額の4分の3を九州地区が貢献していることは九州地区の誇りとするところです。

2022年度は、「九州地区のために良くやってくれている」との評価をいただけるようにさらに努めて参りたいと思っておりますし、熊本城ホール貸切でのJCHO学会も大いに盛り上げたいと存じます。そしてJCHO全体の士気高揚に寄与することに繋がれば、望外の喜びです。

今後も九州地区各病院の課題解決に尽力しながら、JCHOのお役に立てるように努めて参ります。



職場チームによる業務改善の取り組み

21年度の優秀賞・優秀ポスター賞6チームの取り組みを紹介します。表彰されたチームの皆さんの努力と意をお届けしますので、各病院での改善活動にお役立てください。



群馬中央病院 主任薬剤師 新木 美枝

1 薬剤部から病院経営に貢献したい！



院長

～院長に褒められたくて2020～

経緯・目的

2020年、新型コロナウイルス感染症の流行により、外来・入院ともに患者さんが激減し、病院経営に影響を及ぼしました。職員一丸となって、危機を乗り越えなければならない状況となり、薬剤部からも病院経営への貢献を目指し、増収とコスト削減を試みました。

方法

薬剤部は、以下のように多部門から成り立っています。調剤・病棟・外来から処方動向、入院動向、患者動向などの情報を収集し、薬品管理と医薬品情報室で、薬品動向や、診療報酬、費用対効果について分析し、増収とコスト削減への取り組みを検討し実施しました。



増収プラン

- ① 診療報酬・算定
 - 病棟薬剤業務実施加算 ➡ 件数UP！
 - 連携充実加算（外来化学療法加算1）
令和2年新規加算 ➡ 体制整備
 - 一般名処方加算 ➡ 電子カルテマスタ整備
- ② ワクチン関連
2020インフルエンザワクチン接種数増やす
（健康管理センターとの協働）
➡ ワクチン確保

コスト削減プラン

- ③ 院内使用薬剤費削減 ➡ DPCを考慮した薬剤選択
- ④ 期限切れ損耗（高額医薬品等） ➡ 減少！
- ⑤ 手指消毒薬使用量増加対策 ➡ 積極的製剤切替え
- ⑥ 医薬品JCHO共同購入 ➡ 現地入札契約への関わり
- ⑦ 超過勤務の解消 ➡ 勤務シフト組替え

院長！
ほめて
ください



結 果

【増 収】 約800万円
【コスト削減】 約3,200万円

【合 計】 約4,000万円の利益

考 察

今回、体制整備したことで、継続した診療報酬の算定や経費削減につながる成果を得ることができました。継続的に薬剤師が病院経営に貢献するには、診療報酬改定や薬価改定時など、医療動向の変化・ターニングポイントを察知し、再考し続ける必要があります。

ありがとうございます。いつも感謝していますよ

院 長 内 藤 浩



2

愛は、病院を救う

～お金があると愛が潤います～

本当に愛が潤い始めています。

桜ヶ丘病院 看護部長 岩崎 厚子



チームのメンバーの頑張りが職員の意識を変え、他の部門でもひとつずつできることを実行していった結果、1年で2億5千万円を超える収支改善を成し遂げることができ、病院新築計画も無事に進み始めました。

最近では自然と職員の笑顔も増え、患者さんに対して今まで以上に気づかい、やさしく接することができるようになっております。気がつけば本当に「愛は、病院を救う」結果となっていました。しかしまだ志半ばです。今後もこの結果に満足せず、貪欲にできることを取り組んでいきたいと思っております。

今回は私たちの成果を認めていただき本当にありがとうございました。



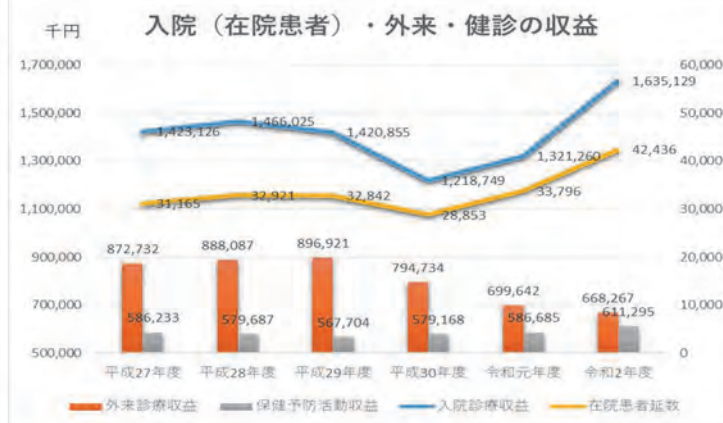
取り組み内容

当院では常勤医師が減少傾向にあり、非常勤医師に診療の多くを依存しています。医師の減少とともに外来収益が減少し、次第に病院全体の収益も悪化し、職員のモチベーションも毎年の赤字決算で下がる一方でした。

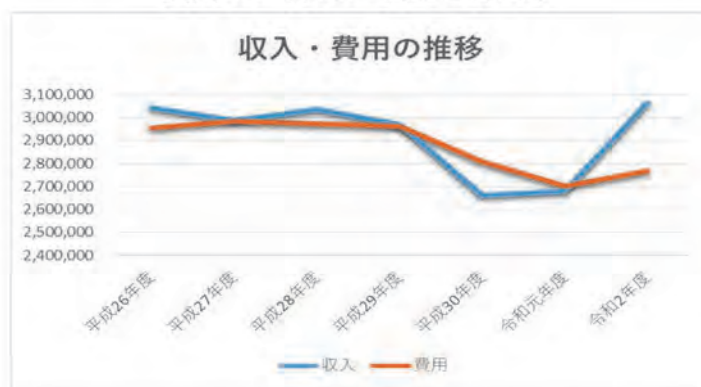
このような状況の中でも病院の移転新築計画は進めておりましたが、ここ数年の収支状況ではとても償還計画を立てることができず、いよいよ桜ヶ丘病院自体の存続が危ぶまれはじめた時だからこそ職員達の目が覚めました。

きれいごととは言っていない、お金がないと何もできない、お金を得るにはどうしたらよいか、という危機意識を全職員が持つことによってはじめて病院が生まれ変わるのだ、ということを実証すべく職員を代表して当チームメンバーが集結し、「各部署で何ができるか」を考えひとつずつ実行をしていきました。

中心となった看護部では地域の連携を強化、施設への訪問回数を150%増やしました。一方、在院日数を適正化するとともに空床状況を各施設にお知らせしていくことを続けた結果、2ヶ月で40人以上在院患者を増やし、かつ利用率も高め安定することができました。



費用は、抑え、収益を伸ばす



院長による 評価ポイント

R2～R3にかけて、病院経営を視野に入れた様々な多職種チームによる業務改善の基盤を築くことができ、発表した内容以上の偉業を成し遂げている。さらに素晴らしいことに、この勢いは、R4にも衰えることなく、また、コロナ大禍を病院一丸となって乗り越えた経験も追い風にして、ますます進化している。このような頼もしいスタッフの力を今後も活かし続けることは管理者の責任だと認識し、私自身も奮起している。(院長 森 典子)

3 外来診療科受付の集約化に向けた取り組み

～医師の働き方改革推進への道～

星ヶ丘医療センター 経理課長補佐 福永 幸子

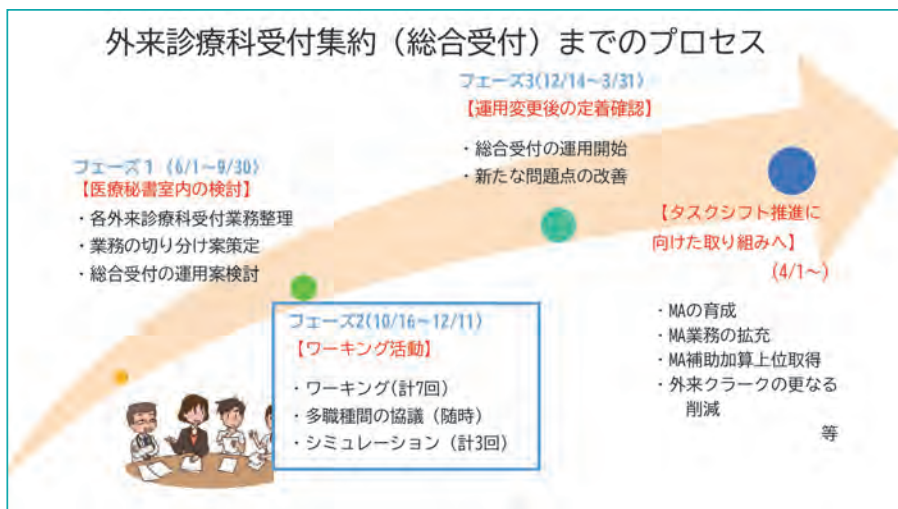


当院では複数に点在する外来診療科受付（24診療科8か所）の業務のあり方を抜本的に見直し、その受付の集約化と運用変更を行うことで、効率的人員配置の実現に向けて取り組みを行いました。外来クラークとして従事している職員を医師事務作業補助者（MA）へ転換することで、新たな雇用をせず、MA員数の充実を図り、医師の働き方改革の更なる推進と医師事務補助体制加算の上位取得を目指す土台作りを多職種とともに取り組んだワーキング（WG）活動を行いました。

WGが始まった当初は、参加メンバーから「できない理由」などネガティブな発言も多く、受付集約化などできるのかと思いました。そんな膠着状況の中、WGリーダーよりWGルールとして「実現するために知恵を出し合う」のスローガンが掲げ、実現に向けた課題を整理し、各部署や関連部署に解決案を次回WGまでの宿題としたことで、WGメンバーも次第に当事者意識が芽生え、前向きな議論ができるようになりました。

また、解決案をWGでさらに議論を深めることで、多職種による多角的な視点からの新たな課題も見つかり、その課題解決を積極的に議論される雰囲気になっていったことは少し驚きでした。医師事務作業補助者を筆頭に参加メンバーの前向きに取り組む姿を見てこれなら上手くいくといつの間にか確信を持ったように思います。

外来診療科受付集約（総合受付）までのプロセス

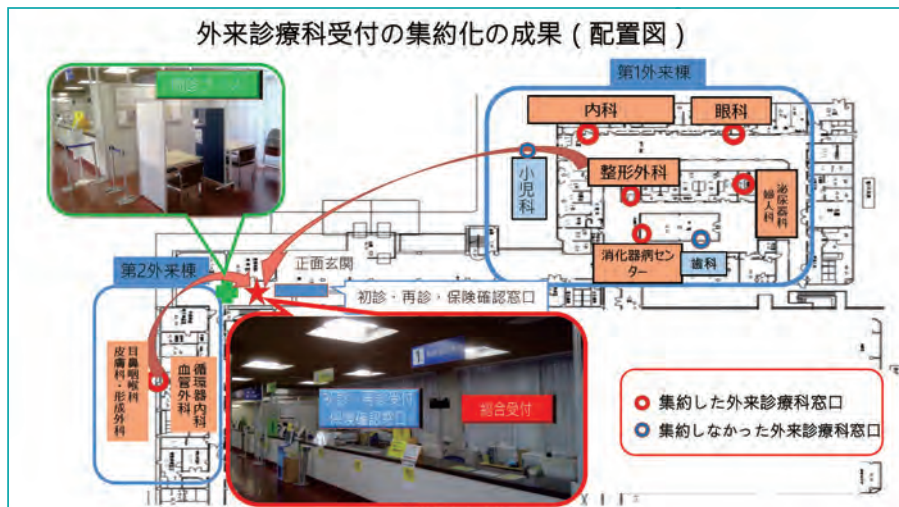


更に驚いたことは、最終的に患者導線や受付集約化による運用変更も決まり、シナリオによるシミュレーションを行ったのですが、複数のWGメンバーからシミュレーションの中での課題が提示され、最終的には1回のシミュレーション予定が、3回行

い、受付集約の運用変更にごぎつめることができました。3回のシミュレーションの効果もあってか、開始後は大きなトラブルもなく、スムーズに受付集約化を実現することができました。

今回のWG活動を通し、多職種の多角的視点による課題解決力の効果の大きさを実感するとともに、「できない理由」を探すのではなく、「実現するために何をするのか」を考えることが重要であると改めて感じる活動であったと思います。

外来診療科受付の集約化の成果（配置図）



院長による 評価ポイント

受付集約は外来診察室の効率的な運用やマンパワーの節約につながり、新病院でもそのまま応用できます。多職種での検討が奏功したと思います。（院長 細野 昇）

4

電子カルテ導入に伴う 外来紙媒体の統一化および 患者満足度向上への取り組み

下関医療センター 副看護師長 吉田 智子

JCHO下関医療センターは、山口県西部、本州の最西端に位置する関門海峡、周防灘、響灘と三方が海に開かれ、自然と文化に恵まれた海峡と歴史のまち下関に位置しています。病院の周辺には、明治維新の志士を祭る桜山神社をはじめ、多くの史跡があり下関の往時が偲ばれます。当院は、急性期医療を提供すると同時に、健康管理センター、介護老人保健施設、訪問看護ステーションを併設しており、疾病の予防から、医療、介護までシームレスに提供できる体制を整えています。「3つのクライアント（患者および家族・地域・職員）を大切にす」基本方針のもと、地域医療に貢献し、よりよい医療を迅速に提供できるように努めています。

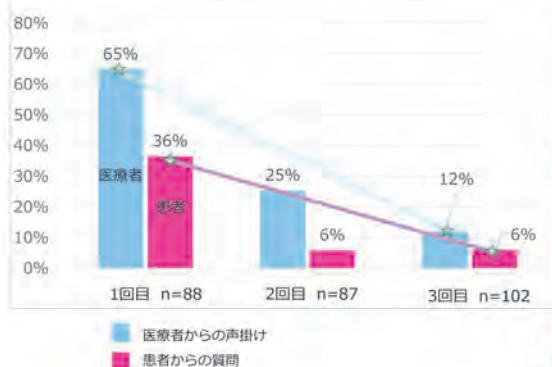
2021年6月の電子カルテ導入に向け、診療に関する書類の整備を行う中で、外来診療で取り扱う説明文や問診票等が161種類と多いことが分かりました。また、外来問診票の文字がにじんで見づらいなどの患者からの問い合わせや、問診内容の不備によるスタッフから患者への説明が多く発生しており、その都度対応に追われていました。そのような状況は、患者サービスの低下に繋がっているのではないかと感じ、今回、患者と同じ目線で考え、患者サービスの向上と業務の効率化を目指して活動しました。その取り組みの中で、紙媒体の文書の電子化および診療科ごとに存在していた問診票の統一化、レイアウトの見直しを行いました。

その結果、文書について医療者から患者へ説明する時間の削減が図れたと同時に、患者から医療者への問い合わせの時間も削減できました。患者の反応は見やすい・書きやすいなどの肯定的な声が聞かれ、スタッフからは、時間的余裕が生まれ、心の余裕に繋がったという意見が多く、医師からは、診察時間の短縮にも繋がった、見やすいものには見る価値があるとの意見でした。1回の患者対応で1分間の時間が削減できたと仮定すると、年間1820時間の削減となります。この時間は、JCHO職員1名の年間労働時間に相当します。これだけの膨大な時間を、他の患者サービスに費やすことができるようになることは、よりよい医療の提供に繋がると考えています。



この度は、優秀賞をいただき感謝申し上げます。今回の取り組みは言葉にしてしまえば、「紙1枚変える」小さなことと思うかもしれませんが、今まで当たり前となっていて、見過ごしていた部分を改善することで、紙1枚変えるだけでも大きな変化が生まれました。これらは、氷山の一角であり、まだ誰も気づいていないこと、見えていないことがたくさんあると考えています。今後もJCHO下関医療センターというブランド力を高め、どんな状況でもクライアントに求めてもらえる病院を目指すと共に、新たな価値を創造し続けるよう貢献していきたいと思っています。今回は、医師をはじめ多くの方々の協力のおかげで、大きな成果へと繋げることができました。ご協力、ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。この度は本当にありがとうございました。

紙媒体における医療者と患者との接触割合



【医療者】
53ポイント ↓
【患者】
30ポイント ↓
新たな時間が生まれる

院長による
評価ポイント

チリも積もれば山となる。日常のささいなムダに気づき、取り除く試みが働き方改革や生産性アップにつながることを示した活動でした。（院長 山下 智省）

地方都市におけるJCHO主導の 新型コロナウイルス感染症の終息に向けた 組織横断的診療戦略

熊本総合病院 看護部 副看護部長 古賀 敦子

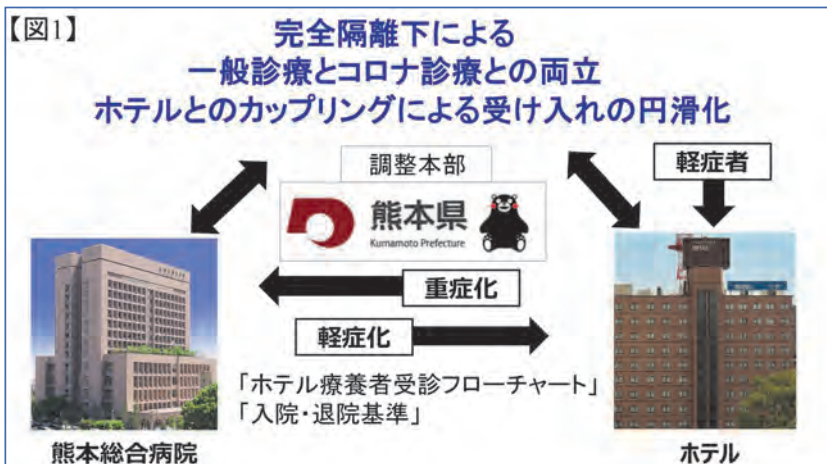
チーム発足から2年以上が経過し、ウイズコロナ時代の第一歩として、非日常の診療体制を日常業務に組み込むことができました。しかしながら、まだまだ課題は多く、変異・新規ウイルス出現にも対応でき、さらに起こり得る新興感染症のパンデミックにも備え、次のステップへと診療体制の構築が望まれます。

さて、この度の表彰で何より嬉しかったのは、コロナ禍で宴席も自由にできない中、頂いた賞金でホッと一息つけたことです。当院1階にあるカフェで、フレンチトーストや南阿蘇の珈琲を堪能でき、美味しい物が笑顔を運んでくれました。この笑顔が次の活力になるように、チーム一丸となって地域貢献に邁進いたします。



2020年から始まった、未曾有の事態となっている新型コロナウイルス感染症に対し、当院では同年2月、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、多職種プロジェクトチームを中心とした活動を直ちに開始しました。

この取り組みの最大の成果は、地方自治体との密接な連携の下、職種横断的に独自的能力や特徴を活かし、急性期医療を縮小せず、医療崩壊も起こさずコロナ診療との両立を図れたことです。それが可能となった要因は、①自治体並びに地域医療の連携の下に当院の特徴的な機能を活かした「外来から入院まで完全隔離下」での効率的・安全な管理体制の確立、ならびに②宿泊療養施設（ホテル）と当院とのカップリングにより患者の重症度による入院治療と療養の連携の円滑化【図1】、③当院独自の「多職種横断的新型コロナウイルス診療フローチャート」による統一した診療の実践、④流行期に応じた感染症病床・発熱外来への適切・円滑な人的物的資源の効果的投入、⑤集団免疫獲得のため当院独自の予約システムを活用した地域最大のワクチン接種病院としての体制を確立し地域へ貢献していることの5点です。ワクチン接種に関しては、国立国際医療研究センターとの共同研究で、海外の著名な科学雑誌に報告するまでに至っております【図2】。これらにより多職種一丸となって取り組み、地域の危機的コロナ感染状況の打破に大いに貢献したことで、県下で最も活躍した救急功労施設として厚生労働大臣表彰を受賞することもできました。



院長による 評価ポイント

熊本県におけるJCHO主導の新型コロナウイルス感染症診療戦略を立ち上げ、業務の忙しさに何ら不平不満をこぼすこともなく全員が一丸となって通常の急性期医療を怠ることなくコロナ感染症医療の業務改善に取り組んでくれた当院の優秀な医師団を始めとする全職員に替辞を贈りたいと思います。（院長 島田 信也）

6

JCHO 山梨病院 2020年度経営改善プロジェクト

～TQM (Total Quality Management) 活動の試み～

山梨病院 地域医療連携室 係長 中村 成一郎

この度は、優秀ポスター賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。

今回評価をいただいた「経営改善プロジェクト」は、これまで山梨病院において、患者獲得に向け行われてきた様々な取り組みについて“横の連携”を推進し、“全体として大きな成果を生み出す”というビジョンからスタートしました。

これに着想を得たのがTQM (Total Quality Management) という経営管理の手法でした。TQMは“総合的品質管理”と呼ばれるもので、部分的ではなく、全体で品質の向上を目指す取り組みを指します。TQMは、医療などの人的サービスにおいても応用できることを知り、今回のプロジェクトの理論的枠組みに採用しました。

具体的な活動内容と結果は、ポスターの通りですが、今回成果を生み出せた一番大きな要因は「職員の意識改革」ではないかと考えております。

プロジェクトの背景、目的と意義、方法、ロジックモデル、期間、倫理的配慮、環境整備、評価指標、増収効果を含んだ企画書や評価シートを作り込み、医局会や幹部会で丁寧に説明したことや、プロジェクトの結果を毎月フィードバックしたことにより、職員の納得や理解が得られ、これが意識改革や行動変容に繋がったのではないかと振り返っております。プロジェクト終了後の課題も多く、すべてが順調とはいきませんでした。今後の病院運営を検討する上で非常に有益な経験を得たと思っております。

最後になりますが、叱咤激励して下さった病院長、院長補佐、副院長、看護部長、事務長、協働したプロジェクトチームのメンバー、全面的にサポートしてくれた地域医療連携室の仲間、そして共に汗をかけたすべての職員に心からの感謝を申し上げ、私の感想とさせていただきます。この度は誠にありがとうございました。

チームメンバー

石原 司 (副院長)	筒井 真由美 (看護師長)
佐々木 茂 (副院長)	青柳 千晴 (看護師長)
壺屋 みゆき (看護師長)	川口 常伸 (事務長補佐 (経理))
清水 千登勢 (看護師長)	吉澤 宏行 (事務長補佐 (医事))
有賀 真理 (看護師長)	長田 邦江 (外来係長)
島津 弘江 (看護師長)	中村 成一郎 (地域医療連携係長)



方法

課題に応じた独自のロジックモデルや企画書を作成することにより、職員全員のベクトルを合わせ、A～Eの5つのプログラム (TQM活動) を組織横断的に推進した。

課 題	プログラム	担当 (職種、部署、委員会)
救急患者の受け入れ	A: 救急患者の受け入れ推進	医師、外来看護師 地域医療連携室、救急委員会
	B: 地域包括ケア病棟への円滑な転移	医師、病棟看護師、地域医療連携室 医事入院係、DPC、外来・病床運営委員会
適切なベットコントロール	C: 急性期病棟の在院日数の適正化	医師、病棟看護師、地域医療連携室 医事入院係、DPC、外来・病床運営委員会
	D: 地域包括ケア病棟の在院日数の適正化	医師、病棟看護師、地域医療連携室 医事入院係、DPC、外来・病床運営委員会
紹介患者の増加	E: 開業医等への渉外活動	地域医療連携室、病診連携地域医療委員会

考察とまとめ

検討項目の結果から、本プロジェクト (TQM活動) は、コロナ禍における当院の経営改善に有効であったと言える。

本プロジェクト (TQM活動) を通じて、病院職員の意識改革が図られ、マイナス収支であった上半期からのV字回復に成功した。

職員のベクトルを合わせ、一致団結するためには、現状と課題を明らかにした上で、戦略プランを「可視化」「共有」することが重要である。

今回評価できた範囲は限定的であるが、今後も職員全員 (Total) で、医療・サービスの質 (Quality) を、継続的に向上 (Management) していきたい。

院長による 評価ポイント

今回受賞の対象となった「経営改善プロジェクト」における中村氏の指摘は明確であり、注目すべきは「適切な項目設定」と「成果の可視化」にある。様々な機会を通じたフィードバックは、課題の共有を通じて、スタッフの意識改革にもつながっている。今後もこうした取り組みを通じて、より効率的で、質の高い地域医療の提供につながっていくことを期待している。(院長 佐藤 公)



新型コロナウイルス 薬剤師活動を今 ～ JCHO法第21条による

災害級に準じた新型コロナウイルス感染症
広域派遣があり、臨時医療施設の新大阪スマイ
女子医大東医療センター跡（2/20～3/31
たので報告します。



7F～14F：ホテル療養
保険区分：保険診療
薬剤請求先：大阪医科大学

2F/5F/6F：中等症患者
保険区分：自由診療
薬剤請求先：大阪府

大阪地区は近畿四国地区薬事専門職（大阪病院薬剤部長 辻川正彦氏）が臨時施設を管理している大阪府と派遣元病院の調整の役割を果たしました。スマイルホテルには、薬剤師としてはJCHOより約1週間交代で1名、国立病院機構より2週間交代で3名、大学病院より3月の1か月間1名、派遣され、他団体の薬剤師との連携が必要となりました。

Voice 1

星ヶ丘医療センター 薬剤師 福田 裕子氏



活動は、ホテル厨房を薬局にすることから始まりました。私たちの最大のミッションは、電子カルテが使えない、限られた医薬品しかない中で、安全・適切な薬物治療を行うシステム作りでした。それぞれの薬剤師がアイデアを出し合って、様々な問題解決に取り組みました。患者さまの持参薬が切れた時も、かかりつけ医療機関や薬局と連携をとり、投薬を続けることができました。Google Driveに残ったマニュアルは、医師・看護師が困らないようにという思いと、自分の後に活動する薬剤師への思いやりが詰まったものになりました。医師・看護師から「薬剤師がいないと困る!」と言っていただき大変うれしく思いました。改めて私たちのチーム力の高さを実感しました。

東京地区は関東地区薬事専門職（埼玉メディカルセンター薬剤部長 伊藤典子氏）が臨時施設を管理している東京都と派遣元病院との調整の役割を果たしました。東京女子医大東医療センター跡の臨時施設（高齢者特化型）の薬剤師はJCHO薬剤師2名のみという状況で、大阪地区とは異なる現地配置でありました。SNSの活用は派遣薬剤師間のみならず現地と薬事専門職間の有益な情報共有ツールになり、派遣薬剤師と薬事専門職の連携が図れました。



主な業務内容は、COVID-19治療薬などの薬品管理・発注・調剤・ミキシング、持参薬の確認、必要薬剤の調達と医師に処方および診療情報提供書の依頼、医師のオンライン診察および同意説明の補助を担いました。



ス感染症の臨時医療施設での 後に繋げる

薬剤師広域派遣より～

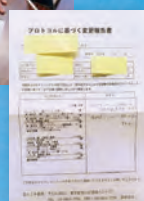
東京高輪病院薬剤部長

本部医療部医療課薬事専門職併任

片山 歳也

(COVID-19)に対して、JCHO法21条に基づき薬剤師の
ルホテル(2/17～3/31 薬剤師1名：述ベ7名)と東京
薬剤師2名：述ベ14名)への薬剤師の広域派遣を行っ

薬剤業務としては安全キャビネット内における無菌調製(ソトロ
ビマブ、レムデシビル)、レッドゾーンとFace time等を用いた持参
薬確認、薬剤師が事前作成した院外処方発行支援、院外処方箋の
疑義照会プロトコルによる変更報告書作成、院外薬局から調剤薬
の受け取りと内容確認は行い、業務手順書作成と東京都からの派
遣薬剤師への引継ぎを行いました。



今回の薬剤師広域派遣は本部薬事専門職と地区薬事専門職
が連携し、派遣元薬剤部長に協力支援を仰ぎ、迅速に対応でき
ました。平時における薬事専門職会議、全国薬剤部長会議での
薬剤師間の連携の重要性を感じました。特に東京女子医大東医
療センター跡の高齢者特化型臨時医療施設における、薬剤業務
では院外処方支援において医師・看護師負担軽減といったタスク
シフトが実践できました。さらに安心して安全な薬物治療の提供、
地域の薬剤師(開局薬局)との連携という部分においても、
JCHO薬剤師に期待される地域医療推進の役割の一端を担うこ
とができたと感じております。このような活動におけるJCHO薬
剤師のやりがいや魅力という部分を薬剤師募集に活用していきた
いと考えており、2022年9月の日本医療薬学会(群馬)で発表予
定であり、次に繋げていきたいと思っております。

最後に今回の薬剤師広域派遣において、ご理解とご協力いた
だきました派遣薬剤師、派遣元薬剤部長と薬剤部員の皆様、そし
て病院管理者の皆様に感謝申し上げます。派遣期間において、日
報報告支援ならびに現場支援に精力的に活動されました薬事專
門職の辻川正彦氏、伊藤典子氏に重ねてお礼を申し上げ、ご支援
頂きました本部医療部および地区事務所の皆様にも感謝申し上げ
ます。

Voice 2

船橋中央病院(現新宿メディカルセンター) 薬剤師 奥主 仁氏



1週間という短期間派遣で担当者が
代わるため、業務の単純化・効率化を
考える必要がありました。私は施設開
設後の第2班として参加しましたが、偶
然にも前後の第1、第3班には人事異動
に関連し以前より顔見知りの方が居た
ためスムーズに業務引継ぎが出来まし
た。また、即断が求められる状況が多
い中、必要時には薬事専門職や前任者
とLINEアプリを用いてリアルタイムで
相談が出来たことは非常に心強かった

です。JCHOチームの強みを感じ、また新しい医療貢献の形を見た瞬
間でもありました。個人として貴重な経験が出来た一方で、広域医療
派遣に送り出してくれた同僚には心から感謝しています。

派遣薬剤師(派遣時所属施設)

【大阪】

福田裕子(星ヶ丘)、森脇 崇(大阪)、東 克彌(京都鞍馬口)、
仲田 美智代(大和郡山)、鈴木 朋克(東京高輪)、秋吉 尚雄(九州)

【東京】

水野宏昭(金沢)、加藤淳一、菅原真那、森田淳介(埼玉)、
角谷 瞳(札幌北辰) 斎藤雄大(仙台) 藤掛沙織、佐野真由美(新宿)
野田美保(東京高輪)、奥主 仁、我妻央陽(船橋) 荻野知紀(山梨)、
樋口泰子(湯河原)

京都鞍馬口医療センター

栄養管理室長 田川 麗子

1. 京都ならではの 和菓子を手作りしています！

当院はクックチルシステムを利用したメニュー展開を行うとともに、嚥下食や化学療法食（ほがらか食）など多彩なメニュー提供をしています。

ほがらか食では、患者様への聞き取りや今までに選択されたメニューから好まれるものを検討し寿司やカレー、関西ならではのたこ焼きやお好み焼き、うどん、茶碗蒸しなどを選べるようにしています。

また、入院中にお誕生日を迎えられた患者様にメッセージカードとケーキをお付けします。食事制限のある方にはケーキの代わりにゼリーを提供し入院中でも楽しみを感じて頂ける工夫をしています。

行事食では調理師が腕を振った手作りデザートを提供しています。

夏越の祓では京都ならではの水無月、端午の節句には柏餅、文化の日にはキャロットケーキなど季節に応じたデザートを提供し好評を頂いております。

これからも、患者様の病状に合わせて様々な食事が提供できるよう取り組んで参ります。



2. 「病院直営給食」で 美味しい食事を

熊本総合病院 副栄養管理室長 白坂 亜子

当院は「美味しい食事」を第一目標にしながら、「治療効果に繋がる食事」や「食材の鮮度・素材を活かす献立」も併せて直営給食で提供しています。

地産 地消

病院のある八代市は季節ごとの農作物が豊富で、今はトマト、サラダ玉葱、メロンが旬です。例えば特産のトマトはサラダで食べても美味しいですが、完熟トマトを牛肉と一緒に「しぐれ煮」に工夫したところ、評判の良いメニューとなりました。

個人 対応

アレルギー食材はもとより、患者様の高齢化で食形態の細分化、食歴による偏食、主食の希望など、鋭意対応しています。また、入院中に誕生日を迎えられる患者様にケーキと赤飯、誕生日カードをつけています。これは当院のスローガンの重要な要素の一つである「おもてなし」の実践に繋がっています。

直営 メリット

昨今、食材価格の高騰は給食現場を直撃していますが、献立の見直し、材料の変更を迅速に行い「美味しい食事」を工夫できる事が直営給食の強みです。地元業者と顔が見える関係を構築している事で、少し形が悪くても新鮮な野菜や市場で仕入れてきた生の魚を納品してもらえ、安心な食材で安全な食事を提供できます。当院では管理栄養士が給食業務に進んで加わっており、自信をもって栄養指導業務も行えます。

入院中、自宅の食事と同じように、直営給食で旬を味わい、健康で美味しい食事を提供できるようにみんなで力を合わせて頑張っています。



当院のトマト料理

3. 飾らない料理に一工夫

大阪病院
副栄養管理室長

塩田 恵理都

入院患者さまの楽しみの一つに、食事が掲げられます。

【病院の食事は味気ない、美味しくない】というイメージが強いのか、JCHOグループのアンケート調査でも、給食部門の満足度評価はやや低値を示します。また【献立名と内容に差がある、同じ内容の食事が続く】【調理方法の工夫が必要】など改善の余地が問題視されていました。

当院では、5週間のサイクルメニューになっており、5週間毎に、同曜日に同一献立が長年続いており、マンネリ化に繋がっていました。

献立の調整は、同週内で献立の入れ替えを行うことから始め、同曜日に同一献立にならないよう変更していきしました。

また患者さまアンケート結果を踏まえ、『日常の食事と変

わりない食事』をコンセプトに、当院管理栄養士と委託給食会社で給食の方針を検討し、院長、看護部長を始めとする幹部とともに協議を重ね、病院全体を挙げ、献立改善に取り組み、献立を一新することができました。

食事の味や食材も重要ですが、見た目の印象も良くできるよう、華やかな色の食器を増やし、盛り付けの工夫など彩り豊かに病院給食のイメージアップを図りました。

昨今、物価高騰により給食材料費への大きな影響が出つつあるものの、委託給食会社の企業努力もあり、現状維持の委託食材費で給食提供を行って頂いています。互いに信頼関係を維持しながら、患者さまに喜んでいただけるよう、より良い給食提供を目指します。



～飾らない～ 料理に一工夫 粉もの文化を活かし…週1度、麺類も組み入れています 食事ごとにお茶、お箸、ナブキンも添えて

当院の
メニュー
紹介

4. ニーズ把握と委託業者との協議がカギ!

人吉医療センター 副栄養管理室長 中村 利枝

当院の給食業務はNST活動や栄養管理体制充実など栄養管理強化の流れを受け、業務委託を行っています。

食材費や人員不足などの問題があり献立内容や食材の変更が続くほか、食事に対するクレームや患者満足度低下に頭を悩ませる時期がありましたが、その都度、委託業者と協議し、日頃から食べ慣れた味になるよう地元産の米や味噌、醤油を使用するなど改善を重ねてきました。

2017年度から管理栄養士が1名ずつ全病棟に専従し、栄養管理や個人対応を充実させたことにより、JCHO患者満足度調査結果比較表平均値では、2016年度3.96から2019年度4.06、2021年度は4.14へと上昇しています。

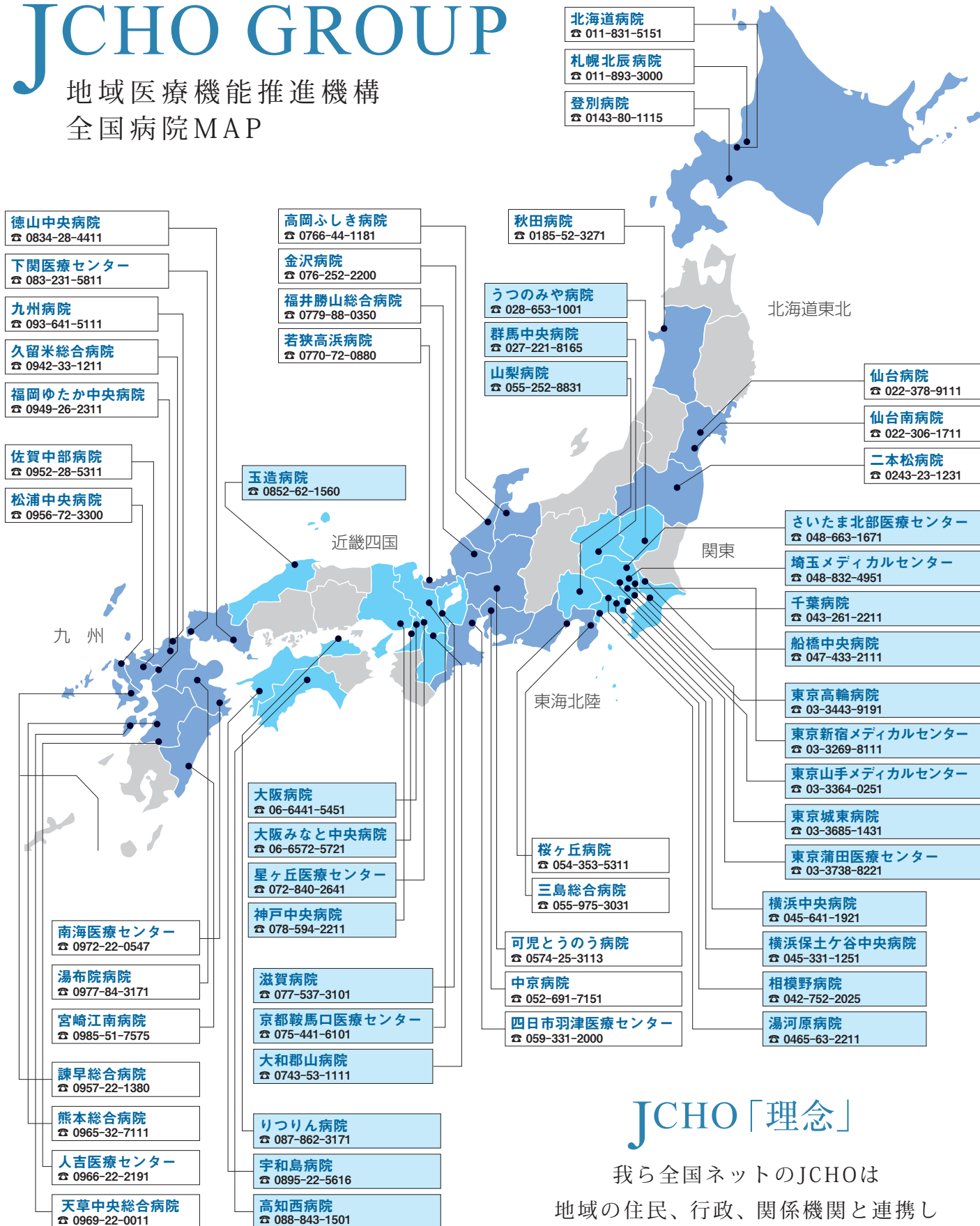
「手の込んだものはいらない」と言われる患者さんが多く、食事満足度調査でも「酢の物、果物、カレー」が食べたいメニューとしてよく書かれており、豪華な食事ではなく、自宅で慣れ親しんだ味を病状にあった量や形態で提供していくことが満足度向上に繋がっていると感じています。

また、入院中に季節を感じていただけるよう月2回の行事食に力を入れています。今後も闘病中の患者さんに負担がかからず早期退院に導ける食事の提供を目指し取り組んで参ります。



JCHO GROUP

地域医療機能推進機構
全国病院MAP



JCHO「理念」

我々全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

地区事務所

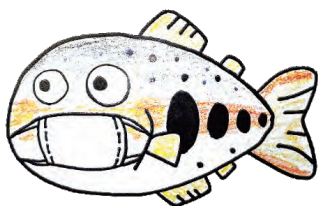
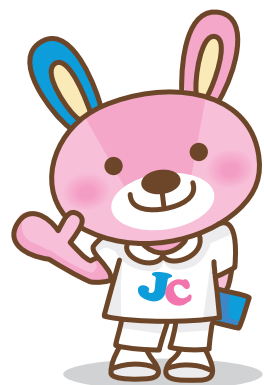
本部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 3F
北海道東北地区事務所 〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院3F
関東地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F
東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三栄1-1-10 中京病院健康管理センター内
近畿四国地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78 大阪病院別館3F
九州地区事務所 〒866-8662 熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟4F

JCHOニュースアーカイブ
URL
https://www.jcho.go.jp/jchonews_archive/



JCHO NEWS

Japan Community Health care Organization News



【特集1】

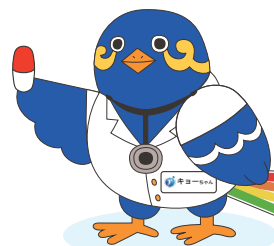
高い病床利用率を
実現する「ジェイ太郎」
システムの開発

【特集2】

～病院経営の
プロを目指そう!～
事務職幹部職員育成研修



JCHO病院の “ゆるキャラ”大集合





02 東京新宿メディカルセンター 附属看護専門学校が移転リニューアル

東京新宿メディカルセンター院長、附属看護専門学校長 関根 信夫

04 【特集1】熊本総合病院の病床管理システム(特許)の紹介 高い病床利用率を実現する 「ジェイ太郎」システムの開発

熊本総合病院 総務企画課 経営企画係主任 西村 秀洋

看護部 相談役 瀬高 香澄

院長 島田 信也

06 【特集2】 ～病院経営のプロを目指そう!～ 事務職幹部職員育成研修【経営分析編】

～次世代を担う経営幹部候補の育成と持続可能な病院経営を目指して～

本部企画経営部

08 【Topics-1】 東京蒲田医療センターと 東京高輪病院との 医療安全相互ラウンドがスタート

東京蒲田医療センター 副院長 渡邊 正志

東京高輪病院 医療安全管理室 医療安全管理者 原田 麗子

10 【Topics-2】 第1回勉強会 PRは「関係づくり」。相手をよく見て伝えよう。

特任補佐 徳岡 晃一郎

千葉大学附属病院 特任准教授 鹿野 由利子

12 【Topics-3】 第2回勉強会 ポスター・チラシは、言葉の引き算と メッセージのビジュアル化

特任補佐 徳岡 晃一郎

千葉大学附属病院 特任准教授 鹿野 由利子

14 【広報アラカルト】 JCHO病院の“ゆるキャラ”大集合!

16 【JCHO GROUP】 施設一覧



東京新宿メディカルセンター 附属看護専門学校が

移転リニューアル

東京新宿メディカルセンター院長、
附属看護専門学校長 関根 信夫



Information

山本理事長の表敬訪問

2022年5月26日、
長崎県知事を
表敬訪問しま
した。

写真右から、
長郷国彦(諫早総合病院長)
大石賢吾(長崎県知事)
山本修一(JCHO理事長)
萩原 淳(松浦中央病院長)



九州大学総長を表敬訪問しました

2022年9月29日、
九州大学総長
を表敬訪問し
ました。

写真右から、
松本高宏(福岡ゆたか病院長)
内山明彦(九州病院長)
石橋達朗(九州大学総長)
山本修一理事長
田中稔理事
井原正裕医療部長





ナイチンゲール・ホール誕生

去る7月30日（土）、東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校移転の式が執り行われました。生憎とCOVID-19第7波が猛威を奮う中、当初の予定では、新宿区長、医師会長、都看護協会長、町会連合会長を来賓に、JCHOとしても山本理事長はじめ関係職員に多数ご参加いただく予定でしたが、ごく内輪での開催となりました。

新校舎は、これまで（株）熊谷組が管理していたビルで、病院別館のすぐ向いに隣接する、附属看護学校としては絶好のロケーションです。もともとテナントとして企業、イベントスペース、収録スタジオなどが入っていた建物で、学校としては若干違和感がありつつも、現代感覚に富んだ、若い学生にとっては嬉しい学習環境かもしれません。正面玄関入ってすぐ奥には、学生が自習、歓談など出来る多目的ホールがあり、野月副学校長のたっの希望で‘ナイチンゲール・ホール’と命名、関連する書籍や資料を常設する予定です。式では同ホールでの次第の後、正面入口で幹部職員によるテープカットを行いました。

本校は昭和33年（学校長の生まれた年）に創立、同年10月25日（学校長の生まれた日）に正式に認可されました。開校当初は病院建物内に設置されましたが、間もなく病院から徒歩3分ほど、飯田橋駅寄りに移転、今般建物がだいぶ老朽化し、2回目の移転ということになります。

さて、移転にあたっては、単に‘物理的’な変化のみならず、我々学校運営を預かる者としての意識改革も必要と考



え、学校長式辞として下記の3点を申し伝えました：1) 病院と学校のより密な関係の構築、2) ‘卒前卒後一貫’の方針を基にした教育体制の推進、3) 地域に開かれた学校としての役割。うち、2)については当院が掲げる看護実習から初期研修へと連続するプログラムであり、他に例を見ない試みと自負しています。また、3)については、コロナ禍となった2020年、ナイチンゲール生誕200年（‘ナイチンゲール・レジェンド’）、翌年にはインスリン発見100周年（‘インスリン・ミラクル’）を記念して、看護学生と病院職員のコラボによる展示を行いました。JCHO発足当初7校を数えた看護専門学校も近年閉校が相次ぐ中、孤壘を守る覚悟で、人材育成のミッションの一端を担うべく、さらなる発展を目指していきたいと思います。

高い病床利用率を実現する「ジェイ太郎」システムの開発

総務企画課 経営企画係主任 西村 秀洋
看護部 相談役 瀬高 香澄
院長 島田 信也

以前の熊本総合病院は、長期にわたる慢性的な経営不振状態にあり、一時期は7億円の負債を抱えるまで落ち込みました。そのような中、2006年に現在の島田病院長が就任し様々な病院経営改革の結果、今ではJCHOトップクラスの黒字病院となり、2011年に新病院建設、2021年には大規模な増改築に着工でき、現在、2023年2月竣工に向けて工事が進められているところです。こうした経営改革の原動力の一つとなった「ジェイ太郎」システムをご紹介します。

病院長が最も力を注いだ経営戦略は「高い病床利用率の維持」です。入院医療は、患者の状態に応じて適切に医療資源が投入され、質の高い医療の提供が求められます。一方で、病院経営の視点においては、高い病床利用率を維持することが最重要課題です。そのためには、時々刻々と変化する入退院患者情報と各病棟の病床情報を「見える化」し、迅速な意思決定を行うことが必要と考えています。

当院では、これまで試行錯誤を重ねながら病床情報の見える化に取り組んできました。2006年に手書きで病床情報を共有するホワイトボードからスタートし、2011年に電子化(単純なエクセルでの共有)。そして2016年に電子カルテと連携して自動集計する「熊本総合病院版病床管理システム」となりました。病床管理の運用の中でシステムから得られる情報をフルに活用することで、コロナ病床(53床)を含んでも高い病床利用率を維持しています(図1)。



「ジェイ太郎」システムの5つの特長

図2の通り病床管理システムを活用し、病床利用率の目標設定→病床管理(現状把握と未来予測)→振り返りという流れをシステムから得られるデータをもとに運用します。運用における優れた点は下記の通りです。

- ① 病床情報の入力に必要な時間は5分程度です。
- ② 病棟別診療科別入院患者数や空床情報等がシステムにより自動集計されます。
- ③ 当日から未来5日間の病床情報をシミュレーションし、推移を予測することができます(図3)。
- ④ 病床情報は、院内どこからでも誰でも見るができます。
- ⑤ 当院では、毎朝8時45分からの全ての医師及び部課長以上が参加する救急外来カンファレンスでこのシステムを活用することで、必要な病床確保と病床利用率アップに繋がっています。

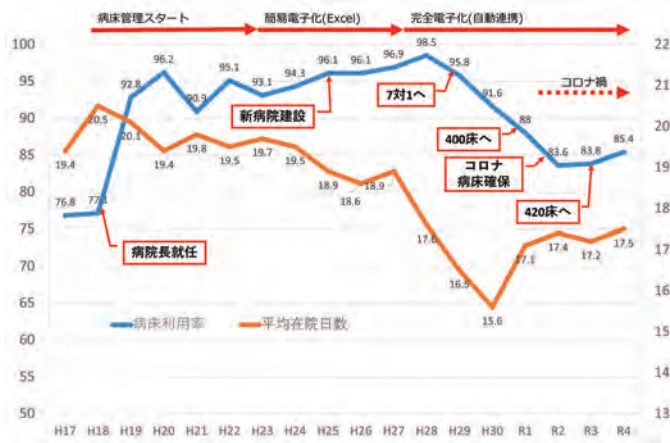


図1：当院の病床利用率と在院日数の推移(2022年は7月まで)



図2：病床管理システムを活用した運用の特徴

		1日前	本日	1日後	2日後	3日後	4日後	5日後
		29(月)	30(火)	31(水)	01(木)	02(金)	03(土)	04(日)
当日	入院	35	21	12	15	3	0	2
	退院	25	15	9	12	6		
	患者数	378	384	387	390	387	379	379
	利用率	90.2%	91.6%	92.4%	93.1%	92.4%	90.5%	90.5%
月間	平均患者数	376.8	377	377.4	390	388.5	385.3	383.8
	平均利用率	89.9%	90%	90.1%	93.1%	92.7%	92%	91.6%
	平均在院日数	16.5	16.7	17	28.9	43.2	52.5	64

図3：入退院予定シート

「運用の手引き」が必須であるとの考えがあり、併せて手引書の作成も行いました。

さらに、広くシステムを提供するとその知的財産の流出が懸念されます。そこでジェイ太郎の技術的な7つの特徴を整理し特許出願したところ、7つを一括して特許第7084513号として認定されました。

以上の通り、システムの作り直しと手引き書の作成、そして特許取得と大変な労力を要しましたが、幸いにもJCHO調査研究事業の支援も頂き、「病床管理システム」と「運用の手引き」を合わせた「JCHO版病床管理システム」が出来上がりました。

画電点睛として、病院長にJCHO版病床管理システム改め「ジェイ太郎」の愛称も頂き、パッケージシステムとして完成しました。

特許を取得し「ジェイ太郎」へ進化

この取り組みを第5回JCHO学会で報告したところ大きな反響を頂き、「自施設でも導入したい」との声が多数寄せられました。また、JCHO前理事長並びに理事の先生方からも他のJCHO病院で使えるものを作って欲しいとのご依頼があり、JCHO版病床管理システムの開発に着手することになりました。とはいえ、病院によって規模も病棟構成も電子カルテも違いますので、当院のシステムをそのまま使うことはできません。さらに、当院では担当職員がトラブルにすぐに対応できることを前提に作成していますが、他病院ではそうはいかなくなります。どのような病院でも利用できる汎用性と、トラブルが発生しない堅牢性をもったシステムは内部構造が複雑となるため、熊本総合病院版のプログラムは流用できないと判断し、ゼロから設計と開発をやり直し、苦労の末、完成に至りました。

また、運用面では、当院の病床管理が実績を上げているのは、現場で培ってきた病床管理の運用ノウハウとシステムがうまく融合しているからと言えます。そのため、システムを提供するなら同時に

JCHOグループ病院への無償提供とさらなる発展に向けてのお願い

当初の目的の通り、グループ全体の発展に貢献できるように、JCHO病院には「無償でジェイ太郎の提供」を行うこととしました。既に、希望されている病院に順次提供を行っております。

「ジェイ太郎」は、成長し続けていくシステムでありたいと考えています。JCHO発のシステムのため、機能追加の要望などに柔軟に対応できます。「このような切り口で分析してほしい」とか「このような機能が欲しい」等のご意見を頂くことで、システムに機能が充実し、その価値を高めることができます。皆様と共にさらにより良いものを作っていきたいと考えておりますので、遠慮なく様々なご意見をお寄せいただければ幸いです。

病院経営のプロを目指そう！

事務職幹部職員育成研修〔経営分析編〕

～次世代を担う経営幹部候補の育成と持続可能な病院経営を目指して～

本部企画経営部

JCHOは「財政的に自立した運営を目指す」（中期計画）中で、経営のキーパーソンとなる事務職幹部候補（エキスパート）を育成するため「経営エキスパート研修」を平成30年度より実施してきました。

本研修は、「①自院の客観的な立ち位置を把握、現実の課題を把握し、②課題解決に向けた具体的な提案を病院幹部に行うことができるように③将来の経営幹部を育成し、持続的に成長する病院経営を行うことができる」を目標に実施しています。

令和4年度からは、病院の核となる経営幹部候補を鍛え上げるため、より専門的な研修を集中的に実施するとともに、JCHO職員全体の底上げを図るため、対象を事務職員（係長級以上）とし名称も「事務職幹部職員育成研修（病院経営編）」と変更しました。

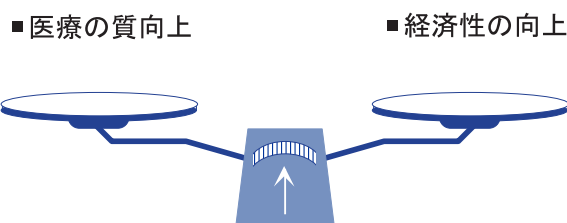
今年度は、講師に千葉大学医学部附属病院 副院長・病院経営管理学研究センター長の井上貴裕先生をお迎えして、
・病院の経営、管理に必要な会計に関する基礎知識や財務分析の理解、
・診療報酬、DPCデータ等を活用した戦略的病院経営の理解など、病院経営を俯瞰的に見ることができる実践的な講義・演習となっています。（48施設57名の受講者が参加）

なお、〔経営分析編〕を修了した受講生は、コーチングや問題解決法に関するスキルを学ぶ〔マネジメント編〕や、病院訪問ヒアリングを通じ、対象病院の経営分析や具体的な対策の立案を行う〔実地研修編〕も受講可能です。

病院経営を取りまく環境が大きく変化する中、地域医療を支える病院職員として専門的なスキルを身につけられる本研修は、全国組織を持つJCHOの大きな特色の一つです。

我こそはという方はぜひご参加ください。

医療の質を向上させながら、
一定の経済性を確保することが求められる。



【研修内容・日程】

開催日	研修内容	開催場所
6月15日(水)	会計の基礎、財務分析・管理会計（講義）	本部研修棟
6月23日(木)	経営学のフレームワーク（講義）	Web参加型
7月7日(木)	会計の基礎、財務分析・管理会計（演習）	本部研修棟
7月14日(木)	医療政策の方向性（講義）	Web参加型
7月21日(木)	経営学のフレームワーク（演習）	Web参加型
8月4日(木)	診療報酬への実践対応（講義）	Web参加型
9月15日(木)	医療政策の方向性（演習）	Web参加型
	診療報酬への実践対応（演習）	Web参加型
9月22日(木)	DPCデータ等を活用した戦略的病院経営（講義）	Web参加型
9月29日(木)	DPCデータ等を活用した戦略的病院経営（演習）	Web参加型
10月20日(木)	参加者による自院のプレゼンテーション（演習）	本部研修棟





井上 貴裕 先生

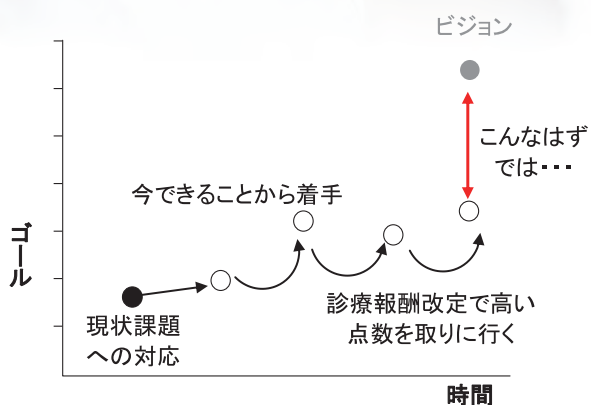
【ご略歴】

東京医科歯科大学大学院にて医学博士および医療政策学修士、上智大学大学院経済学研究科および明治大学大学院経営学研究科にて経営学修士を取得。

現在、千葉大学医学部附属病院・副病院長・病院経営管理学研究センター長・特任教授・ちば医経塾塾長、岡山大学病院・病院長補佐、岡山大学・客員教授、東邦大学医学部 医学科・客員教授、日本大学医学部社会医学系医療管理学分野・客員教授、自治医科大学・客員教授、地方独立行政法人東京都立病院機構・理事（経営戦略担当）

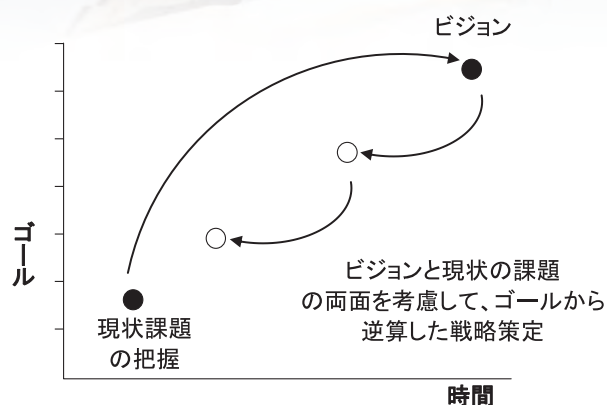
ビジョンに基づいた戦略的経営を推進し、どうなりたいのか、地域医療の実状を踏まえてどうなるべきなのか、そのために今何をすべきかが根底にあることが求められる。

現状積上げによる課題解決アプローチ



中長期的なビジョンがあいまいなまま、目の前の着手可能なことや、診療報酬改定で高い点数がついたことに終始する現状積み上げで対応すると、最終的に本来的に目指していた姿と大きなギャップが生じてしまう。

中長期的なビジョンに基づく課題解決アプローチ



「なりたい姿」としての思いと、地域医療のあり方を考えた「なるべき姿」、現状を踏まえた「なれる姿」から総合的に判断して「目指すべき姿」を明確にした後、これを達成するための戦略を策定することが求められる。

受講者の声

利益率を確認し 病院の問題点が見えた

東京新宿メディカルセンター
入院係長 石塚 宏子

貸借対照表や損益計算書により病院全体の業績が分かり、利益率などを確認することで病院の問題点や戦略を検討することが出来ると気づきました。

また、講義の後にそれぞれ演習があることにより、自院の置かれている状況や今後の取り組みべき課題が見え、また他院での取り組み・戦略を拝聴出来、参考にさせていただける事項もあり、気づきの大切さを学びました。

給与と材料費比率の 高さに驚き

横浜中央病院
入院係長 笹山 美乃里

今回の研修では、病院経営の分析及び医事と経営の関係について学ぶことが出来ました。

経営については、収益性の分析が特に印象的でした。病院の給与と材料費などの比率について財務諸表から計算した時に給与比率と材料費率が高く驚きました。また、今回の研修にて医事と経営の関係性についても勉強不足と感じました。

収入源と費用の 両方の視点が大事

大阪病院
将来構想戦略室長補佐 栗本 真吾

私自身は、旧厚生団時代から約20年間医事課職員として勤務しており、今年4月より新しい部署で勤務しております。医事課での主な業務がレセプト請求（いわゆる収入源）であるため、コスト面（費用）については、業務の中で特に考えたこともありませんでした。病院全体の経営を熟知するには、収入だけでなく費用の面からも、様々な視点から検討していくことが重要であることを、当該研修を通じて学びました。

1 東京蒲田医療センターと東京高輪病院 医療安全相互ラウンドがスタート

理事長のささやきがきっかけでした。

東京蒲田医療センター 副院長 渡邊 正志



東京蒲田医療センター訪問時の
相互ラウンド会合にて

「機能評価機構の受審をしている高輪と受審をしてない蒲田の間で一度相互ラウンドをやってみたらどうか?」との山本理事長のみんなに聞こえるささやきがありました。私と片山委員(東京高輪病院片山薬剤部長)は一瞬目を合わせやってみますかと合図をしいました。準備や顔合わせが必要で、まずWebで2022年1月14日に第1回目、人事異動でメンバーが変わるので3月30日に2回目の打合せをしました。相互ラウンドを行うにあたっては両病院の医療安全部門が自病院の医療安全の状況を記載する自己評価票が必要となります。これについては、高輪病院が都内大学病院との間で使っているものを参考に今回は私が作らせてもらいました。エクセルベースで蒲田のデータと高輪のデータが横に並ぶもので、将来はJCHO57病院のデータが並べられれば、病院間の医療安全の連携が広がるだろうな、と思いながら作りました。今回の自己評価票には、医療事故調査・支援センターが発行している各「医療事故の再発防止に向けた提言」についてどのくらい対応が進んでいるか問う事項を入れてあります。提言3はアナフィラキシー対応ですが、蒲田は各現場でシミュレーションを行い、万全の体制が取れるよう訓練しています。他院のグッドプラクティスを学ばせてもらい自院のものとする、

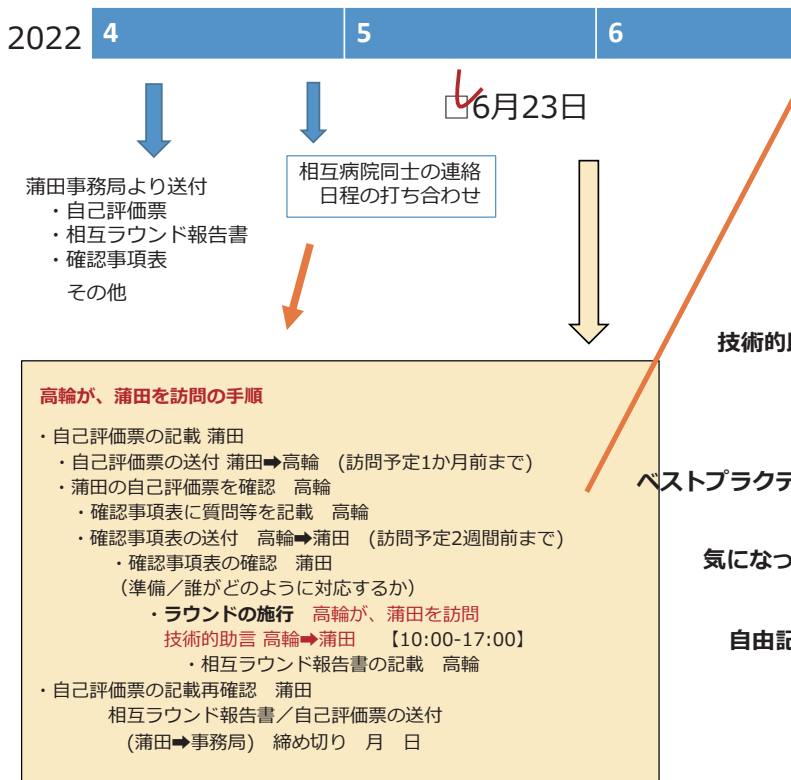
プラクティス運用の現場・現実・現物を見させてもらい運用の苦労を実感するのが相互ラウンドで、Webで済ます訳には行かないところがあります。

タイムテーブルを作って望んだのですが、コロナ渦に完全に巻き込まれ、蒲田が高輪を訪問するところで止まっています。高輪の訪問を受けた際、参加者が意見を言い合えるいい雰囲気の会ができたと自負していたのですが。高輪と蒲田、同じ規模ですが、インシデントレポート数は高輪は年3,000件以上で蒲田の3倍以上です。蒲田でもPICCカテーテルセンターを作りたいので見学をお願いしています。

早く高輪を見に行きたい気持ちでいっぱいです。

医療安全相互ラウンド (JCHO)

高輪が蒲田訪問タイムテーブル





異なるシステムから大きな学び

東京高輪病院 医療安全管理室 医療安全管理者 原田 麗子

今年度より、JCHO病院内の医療安全に対する新たな試みとして、東京蒲田医療センターと、当院での相互ラウンドを行う事となりました。昨年度よりweb会議の開催、渡邊副院長先生を中心に相互ラウンドの行程などをご提案頂き準備を進め、評価表を基に事前に資料を提示し、6月23日に当院の医療安全管理室のメンバー5名で東京蒲田医療センターへ訪問させて頂きました。

まずは東京蒲田医療センターの医療安全に対する取り組みについて説明して頂きました。インシデントの報告システムは当院とは異なるシステムではありましたが、タイムリーに共有するべきインシデント報告やgood job報告を



東京高輪病院 医療安全管理室メンバー

ラウンド実施期間：5月より6月末日

相互ラウンド実施報告書 a

2022年度医療安全相互ラウンド実施報告書(JCHO)

ラウンド日程		2022年 月 日	
病院名	訪問側 〇〇病院	受入側 〇〇病院	
ピアレビュー参加者		訪問側	受入側
1	役職 医療安全管理責任者名又は代理者名 お名前 職種(専従・専任・兼任) 職種 (専従・専任・兼任)	1	代理者名 職種 (専従・専任・兼任)
※ 参加者(双方の医療安全管理部門の参加者及び受入側で参加した方々を記入してください)			
技術的助言等と対応案			
	法令に基づく技術的助言 インシデントやアクシデントの報告等の状況(報告、分析、改善策の立案及び実施等)	訪問側記載: 助言等 【助言の詳細】	受入側記載: 対応案 【いただいた助言への対応】
	医療安全管理委員会の業務の状況	【助言の詳細】	【いただいた助言への対応】
	医薬品等の安全使用体制の状況(医薬品安全管理責任者の業務等)	【助言の詳細】	【いただいた助言への対応】
※ 平成三十年改正省令による改正後の医療法施行規則第九條の二十の二第一項第十号イ及びロに規定する「技術的助言」			
ベストプラクティス			
1	ベストプラクティス等 優れた取組、参考になった事項記載	ベストプラクティス等	受入側記載: ベストプラクティス等
1	気になった点 気になった点記載	訪問側記載: 気になった点	受入側記載: 気になった点
その他(自由記載・次年度ピアレビュー者へのメッセージ)			
1	次年度ピアレビュー者へのメッセージ等 その他	訪問側記載: その他	受入側記載: その他
記入者・記入日			
	記入者氏名	訪問側	受入側
	記入者氏名		
	記入日(年 月 日)		

職員が閲覧できるシステムは、職員のリスク感性の向上や、good job報告を共有する事でモチベーションの向上にも繋がり効果的な取り組みだと思いました。

また、コロナ禍で集合研修を行う事ができない中での工夫として、動画講義配信システムを活用し自施設に合わせた動画講義を作成し研修を行っている事を知ることができました。当院ではDVDを配布しての研修を行っていましたが、今後当院でも動画講義配信システムを更に有効的に活用していきたいと思います。

院内ラウンドでは医療安全委員会を実際に見学させて頂きました。リンクスタッフへ向けた動画講義や、各部署からの報告など活発な意見交換がされており、私にとっても大きな刺激となり、今後の委員会活動に活かしていきたいと思いました。また、レントゲンのシステムや、医療機器管理室、薬剤部など多くの場所を見学させて頂き、意見を交換する事ができました。

8月には当院に訪問して頂きラウンドをする予定でしたが、コロナの感染拡大もあり延期となってしまいました。

今回の相互ラウンドを通して、他施設の取り組みを知り、情報を共有することで、自施設での医療安全体制の振り返りや、新たな課題に取り組むことに繋がると思いました。この取り組みを重ねていくことで、JCHO病院内での相互ラウンド、連携のあり方について形づくりができ、医療安全への取り組みの向上に繋がればと思います。

2.

第1回
勉強会PRは「関係づくり」。相手をよく
テーマ：病院が取り組む広報活動とは

第1回 広報勉強会レポート

特任補佐 徳岡 晃一郎

新理事長の下で、コミュニケーションの刷新が大きなテーマとして掲げられました。尾身前理事長の下で弾みがついたJCHOの存在感をさらに高め、病院経営に資するとともに、コロナ禍の切迫した状況下でも職員一同がスムーズに協力しあうには病院内外のコミュニケーションが不可欠であるからです。そのために本部として、まず今年は現場で病院内外の広報・コミュニケーションに携わっている皆さんのためのスキルアップに役立つ勉強会を開催していくことにしました。

今年は、6月から4回シリーズとし、千葉大学医学部附属病院の特任准教授（広報戦略担当）である鹿野由利子先生をお招きして、全国の施設を対象に広報勉強会を開催しはじめました。

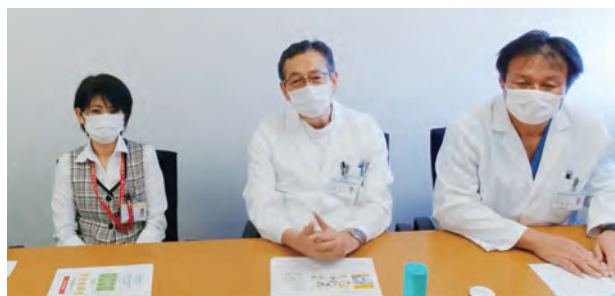
当初は広報に関する全国的な取り組みが初めてということもあり、どれだけの職員の方が参加してくださるか不安でしたが、蓋を開けてみると51施設、265名もの参加申し込みがあり、皆さんの関心と問題意識の高さがうかがえました。

第1回では、「病院が取り組む広報活動とは」というテーマで、主に広報活動についての基礎知識や心構えを講義していただき、日ごろの活動を振り返っていただく機会としました。おそらく多くの広報担当者や発信物を作る担当者はこれまで無手勝流に見様見真似で「広報」してこざるを得なかったと思いますが、「広報＝良い関係づくり」「メッセージが届いてなんぼであり、受け手視点が大事」とであると強調され、発信のいい例・悪い例を具体的に比較して説明していただき、見過ごしていた点に気づかされました。

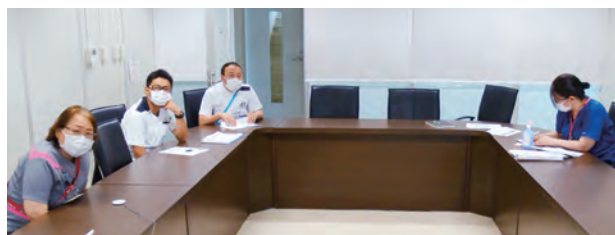
講義終了後も、「当日は業務の都合で参加できなかったが、アーカイブ動画を視聴したい」という積極的な意見を多数いただきました。また、アンケートでも好意的な評価が数多く寄せられたほか、先生への質問や今後取り上げてほしいテーマなど様々なご意見があり、今後の広報活動の質向上が期待できる勉強会になりました。



今回の講師の鹿野先生です



神戸中央病院



人吉医療センター



うつのみや病院

見て伝えよう。



勉強会でお伝えしたこと

千葉大学医学部附属病院 特任准教授 鹿野 由利子

広報=PRは「関係づくり」です。自己満足にならないよう、常に受け手の目線に立って情報を伝え、伝えた後には検証する、その繰り返しで関係が築かれていきます。限られた予算、人材、スキルだからこそ、手段の目的化は避けなければなりません。一つ一つの活動について、誰に対して、どんな変化を期待してつくっているのか、病院のどんな目標を達成したいのか、どんな課題を解決したいのか、言語化してみることが重要です。

PR活動はいろいろな種類があります。

PRは、広報誌や動画、ホームページだけではありません。報道機関への情報提供、院内広報も重要な活動です。



広報誌やポスター、チラシ、パンフレット、スライド、動画の特性を理解した上で作成することが重要です。

媒体	特徴
広報紙	・親近感を高める役割。読み手に合致した内容を。配布ルートの開拓が課題。
ポスター	・「気づき」を促す。視覚的なインパクトが求められる。情報量は最小限に。
チラシ	・「内容理解」を促す。詳細情報を優先度に応じてレイアウトする。
パンフレット	・「詳細情報の理解」を促す。配付方法に適したページ数、重さ、大きさに。
説明スライド	・説明者の表情、肉声とともに見る資料。端的な表現、ビジュアルの活用を。
動画	・言葉、映像、音楽を活用し、視覚、聴覚に訴える。イメージ伝達に有効。

※図と表は勉強会資料より抜粋

3.

第2回
勉強会

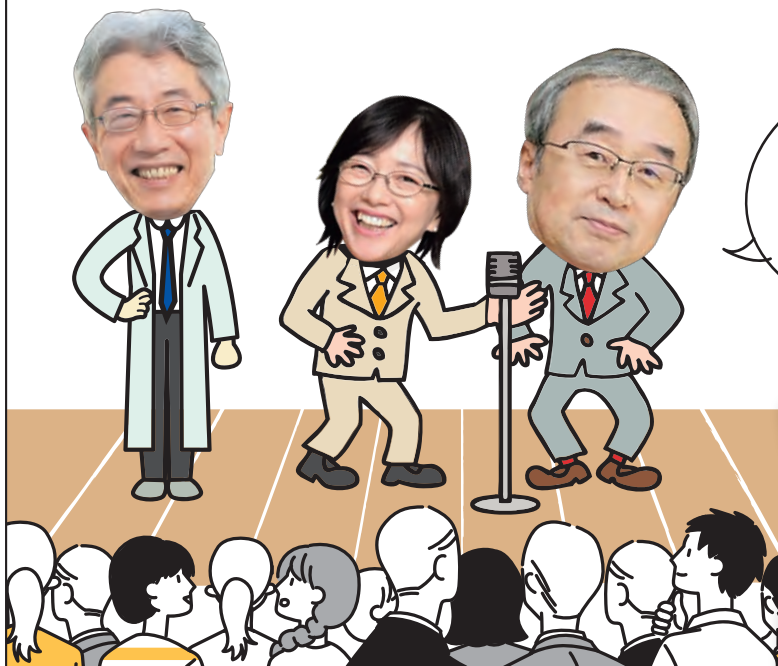
ポスター・チラシは、言葉の引き算

テーマ：患者さん向けチラシや広報誌の作り方



第2回 広報勉強会レポート

特任補佐 徳岡 晃一郎



4回目は
広報の在り方について
3人と参加者皆さんとの
フリーディスカッションを
行いますのでお楽しみに



事前に病院より提出した
実際の広報誌を添削して
いただきました。

7月8日(金)、前回に引き続き鹿野先生をお招きし、「患者さん向けチラシや広報誌の作り方」というテーマで第2回広報勉強会を開催いたしました。

今回も盛況で、49施設278名の方が参加申し込みをしてくださいました。今回は山本理事長も参加され、「広報活動においては相手のことを常に思いやることを意識してほしい」との冒頭メッセージでスタートしました。

今回の講義は、いくつかの病院より提供していた実際の広報誌を、鹿野先生が添削する形で進行了しました。ポスターや広報誌を作成する際に注意すべき点を、字の大きさ、見やすさ、色使い、パワーポイントのテクニック、効果的な写真のアングルやレイアウトなど、編集方法をととても具体的に解説していただきました。すぐに病院での広報活動に反映させることのできる内容でした。特に、講義中に何度も「良い関係づくり」に必要な「見る人の目線に立って考える」ことを強調され、第一回での気づきを定着させていただきました。

また、実際の広報誌をベースに先生が指導してくだったので、互いの広報活動の情報交換ができてよかったとの声が寄せられており、今後このような交流が進むように本部としても検討していきたいと考えています。

第3回、第4回の広報勉強会のレポートは、次号以降のJCHOニュースにて紹介いたします。

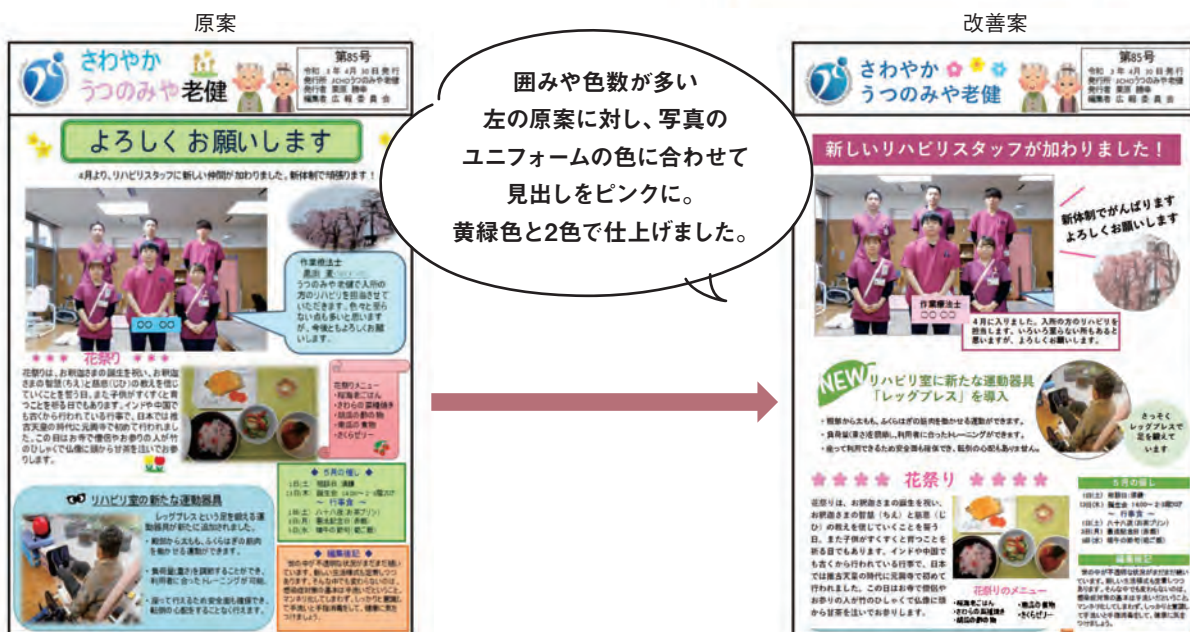
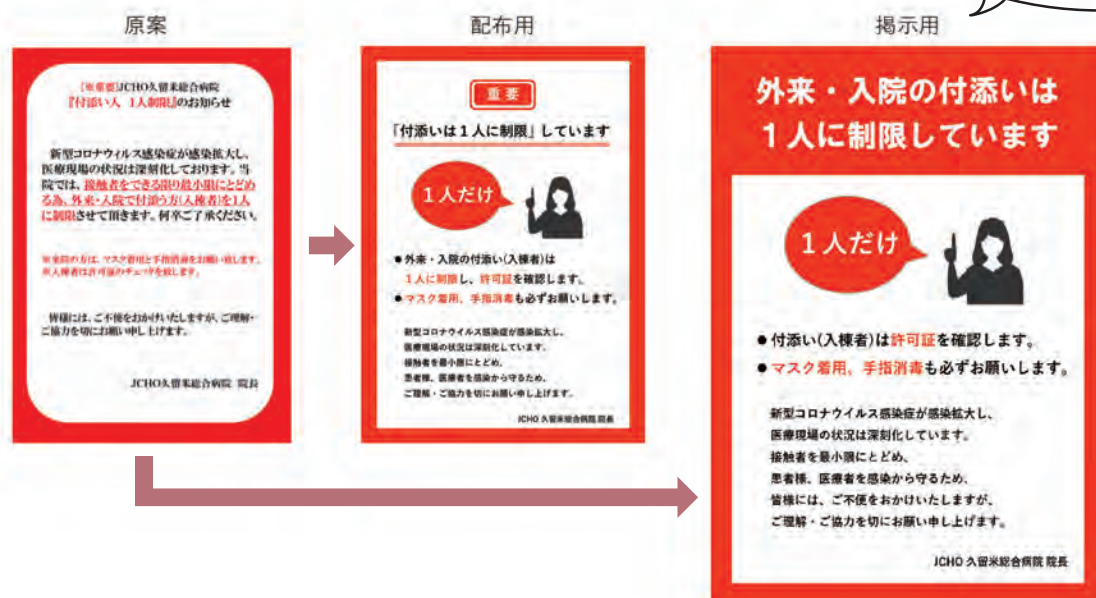
とメッセージのビジュアル化を

勉強会でお伝えしたこと

千葉大学医学部附属病院 特任准教授 鹿野 由利子

第2回は参加者から実際に作ったものを事前に送っていただき、添削しながら作成ポイントをお伝えしました。人はまず、印象で「見る」「見ない」を決めるので、どんなにいい内容でも印象が悪いとポスターなら通り過ぎ、パンフレットなら瞬時にページをめくり、チラシなら手に取りません。文字を詰め込み、伝えたいことを一方的に伝えるのではなく、あるいはネオン街のような色使い、過剰演出はせず、キーメッセージが引き立つように引き算をしましょう。

左端が原案。
チラシにはイラストを入れて、
ポスターはタイトルだけでも
読んでもらえるように、と
さらに改善しました。

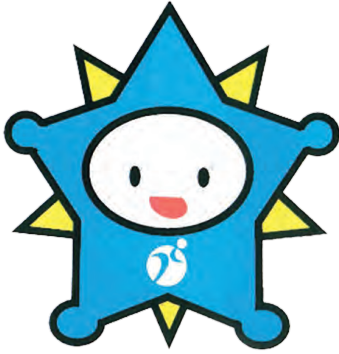


JCHO病院の“ゆる

日本全国JCHO病院で誕生中! 親しみやすい JCHO

札幌北辰病院

ピカTARO



名前: ピカTARO

お仕事又は活動場所:

広報活動全般 (院内バスターや名刺など)

出身: 新さっぽろ

一言メッセージ:

寡黙なキャラクターなのでコメントはなし

その他:

平成30年9月に行われた「JCHO札幌北辰病院公式キャラクター総選挙2018」で栄えある第1位を獲得したピカTARO。活動範囲はまだまだ限定的で寡黙なキャラクターだが、北辰(=北極星)のごとく院内を明るく照らす存在として愛されている。近い将来、2Dから3Dになることを夢見ている。

仙台病院

ずんずん



名前: ずんずん

お仕事又は活動内容: 広報活動全般

出身: 宮城県仙台市泉区紫山

一言メッセージ:

患者さん、病院、職員、そして草木まで元気にします!

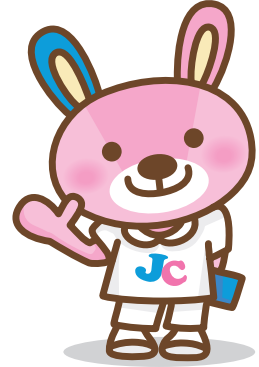
その他:

仙台の名物「ずんだ」を頭に乘せている妖精。JCHOの「H」と「O」に見えるほっぺたの赤み特徴。ポシェットの中にはいつも救急セットが入っている。みんなの心に花を咲かせるような優しい心を持っている。

身長: 39cm 体重: ずんだの実39個分

千葉病院

ちーばぴょん



名前: ちーばぴょん

お仕事又は活動内容:

看護師さんの就職活動等の広報活動

出身: 千葉県千葉市のピーナツ畑

一言メッセージ:

千葉病院を愛してやまない「ちーばぴょん」です。病院内を夜ごとピョンピョン跳んでいます。見かけたら声をかけてね! (お化けじゃないよ!)

その他:

千葉県のキャラクター「ちーばくん」とは遠い親戚関係です。千葉市仁戸名町にウサギとして生まれ早数年。現在、千葉病院のキャラクターへと転生しました。

福井勝山総合病院

ジェイクン、コーちゃん



名前: ジェイクン、コーちゃん

お仕事又は活動場所:

広報活動全般、健診バス、職員採用活動、診察カード

出身: "恐竜王国" 福井県勝山市

一言メッセージ:

奥越地区の健康を守ります!

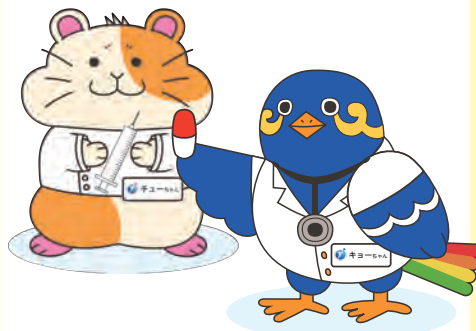
その他:

職員に公募し、投票により誕生!

職員手作りのぬいぐるみ等も作成し、幅広く活動中。子供から大人まで、みんなに愛される人気キャラクターです!

中京病院

チューちゃん、キョーちゃん



名前: チューちゃん、キョーちゃん

お仕事又は活動場所:

広報活動全般、新しいお仕事募集中

出身: 名古屋市南区

一言メッセージ:

まだまだ露出が少ないです! お仕事いただければどんどんやります!

その他:

誕生日2021年12月1日

(12月1日は中京病院の旧開院記念日です。)

職員からの公募と全職員による選挙の結果誕生したキャラクター。

ハムスターのチューちゃんの特技は注射、九宮鳥のキョーちゃんの特技は急患対応。

誕生してまだ日が浅いため認知度はまだまだこれからです。現在の活動は院外報と院内報の片隅にちょこっと出演。

滋賀病院

びわ あゆみん



名前: びわ あゆみん (愛称: あゆみん)

お仕事又は活動場所: 広報活動 (広報誌等)

誕生日: 11月14日

座右の銘: 先手必勝

モットー: 迅速対応

その他:

あゆは急流を遡上して行くことから元気・若さ・勢いを表す滋賀を代表する魚です。看護職員が「活き活きと看護に携わる」そんなマスコットキャラクターとして生まれました。

キャラ”大集合！

病院作りに“ゆるキャラ”を活用してみませんか。

船橋中央病院

ふなっちゅう



名前：ふなっちゅう

お仕事又は活動場所：

病院紹介・インターンシップ・広報活動・
クリアファイルにもなっている

出身：船橋

一言メッセージ：

まだ言葉がしゃべれません。

その他：

船橋の名産 梨を頭に載せて、可愛い船中（ふなっちゅう）ネズミと掛け合わせました。誕生日はJCHO発足日と同じで2014年4月、7歳になりました。

東京新宿メディカルセンター

COPIT(コーピット)



名前：COPIT（コーピット）

お仕事又は活動場所：

病院感染制御のシンボルとして、各病棟・部門で職員を見守っている

出身：筑土八幡神社（東京都新宿区筑土八幡町）

一言メッセージ：

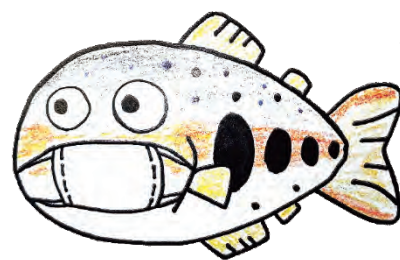
COPIT = COntrol and Prevention of Infection with Team チーム医療による感染制御・予防

その他：

当院が2020年5月、COVID-19のクラスターを経験した折、院長が平癒祈願に訪れた筑土八幡神社の由来が、「平安時代、信心深い翁の夢に『白い鳩』が現れ、神のお告げとされたこと」であると知り、病院守護のシンボルとすることを思い立った。デザインはアニメーターでもある看護師、命名は院長。

東京山手メディカルセンター

ヤマメちゃん



名前：ヤマメちゃん

お仕事又は活動場所：

病院診療案内や新人看護師の初心者マークで活躍しています。

出身：新宿区神田川

一言メッセージ：

ヤマメメディカルのヤマメちゃんです。コロナが収まって、マスクを外した顔も楽しみにしてくださいね。

その他：

- ・地域からも愛されることを目指しています。
- ・ライバルは新宿区神宮球場のつば九郎です。
- ・ヤマメメディカルの略称から生まれました。
- ・誕生日：11月11日 病院の開院記念日です。
- ・1111は体の「パーマーク」にも似ていると言われます。

星ヶ丘医療センター

星のきらり



名前：星のきらり（愛称：きらりちゃん）

お仕事又は活動場所：

ポスター

看護師リクルート動画（YouTube）など

出身：星ヶ丘医療センターの森で生まれた妖精です♪

一言メッセージ：

たくさんの人に星ヶ丘医療センターに親しみを持ってもらえるように、これからも頑張ってお手伝いをしていきます！

その他：

特技は、星の光で心を癒すこと！人を笑顔にすることが大好き！よろしくね☆

りつりん病院

くりりん



名前：くりりん

お仕事又は活動場所：

広報活動全般（広報誌、イベント、名刺など）

出身：うどん県 栗林公園育ち

一言メッセージ：

なんがでっきよんな。（何しているの）うどん食べにきまい。（うどん食べにいらっしやい）

キャラクターのPR：

誕生日：12月26日 病院の開院記念日です。

こうやどふのてんぶらがトッピングされたうどんが大好きです。

手足を締め高速回転しながら毎日院内パトロール。みんなに笑顔と元気を届けて！

松浦中央病院

なぎさ



名前：なぎさ

お仕事又は活動場所：

広報誌や勉強会など当院のPR活動

出身：長崎県松浦市

一言メッセージ：

「はじめまして。アジフライの聖地で絶賛活動中のなぎさと申しますなぎ〜九州最西端の辺境の地から「華夷弁別」輝いていくなぎ〜♪

その他：

令和2年11月1日生まれ。ロクせ「〇〇なぎ〜」。病院新築移転に伴い、院内でマスコットキャラを募集し、決定しました。JCHOマーク、松浦の花つつじをイメージしています。

北海道東北地区

北海道	北海道病院	062-8618	北海道札幌市豊平区中の島1条 8-3-18	Tel. 011-831-5151
	札幌北辰病院	004-8618	北海道札幌市厚別区厚別中央 2条 6-2-1	Tel. 011-893-3000
	登別病院	059-0598	北海道登別市登別東町 3-10-22	Tel. 0143-80-1115
宮城	仙台病院	981-3281	宮城県仙台市泉区紫山 2-1-1	Tel. 022-378-9111
	仙台南病院	981-1103	宮城県仙台市太白区中田町字前沖 143	Tel. 022-306-1711
秋田	秋田病院	016-0851	秋田県能代市緑町 5-22	Tel. 0185-52-3271
福島	二本松病院	964-8501	福島県二本松市成田町 1-553	Tel. 0243-23-1231

関東地区

栃木	うつのみや病院	321-0143	栃木県宇都宮市南高砂町 11-17	Tel. 028-653-1001
	群馬中央病院	371-0025	群馬県前橋市紅雲町 1-7-13	Tel. 027-221-8165
	さいたま北部医療センター	331-8625	埼玉県さいたま市北区宮原町 1-851	Tel. 048-663-1671
埼玉	埼玉メディカルセンター	330-0074	埼玉県さいたま市浦和区北浦和 4-9-3	Tel. 048-832-4951
	千葉病院	260-8710	千葉県千葉市中央区仁戸名町 682	Tel. 043-261-2211
	船橋中央病院	273-8556	千葉県船橋市海神 6-13-10	Tel. 047-433-2111
東京	東京高輪病院	108-8606	東京都港区高輪 3-10-11	Tel. 03-3443-9191
	東京新宿メディカルセンター	162-8543	東京都新宿区津久戸町 5-1	Tel. 03-3269-8111
	東京山手メディカルセンター	169-0073	東京都新宿区百人町 3-22-1	Tel. 03-3364-0251
	東京城東病院	136-0071	東京都江東区亀戸 9-13-1	Tel. 03-3685-1431
	東京蒲田医療センター	144-0035	東京都大田区南蒲田 2-19-2	Tel. 03-3738-8221
	横浜中央病院	231-8553	神奈川県横浜市中区山下町 268	Tel. 045-641-1921
神奈川	横浜保土ヶ谷中央病院	240-8585	神奈川県横浜保土ヶ谷区釜谷町 43-1	Tel. 045-331-1251
	相模野病院	252-0206	神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-2-30	Tel. 042-752-2025
	湯河原病院	259-0396	神奈川県足柄下郡湯河原町中央 2-21-6	Tel. 0465-63-2211
山梨	山梨病院	400-0025	山梨県甲府市朝日 3-11-16	Tel. 055-252-8831

東海北陸地区

富山	高岡ふしき病院	933-0115	富山県高岡市伏木古府元町 8-5	Tel. 0766-44-1181
	金沢病院	920-8610	石川県金沢市沖町ハ 15	Tel. 076-252-2200
福井	福井勝山総合病院	911-8558	福井県勝山市長山町 2-6-21	Tel. 0779-88-0350
	若狭高浜病院	919-2293	福井県大飯郡高浜町宮崎 87-14-2	Tel. 0770-72-0880
岐阜	可児とうのう病院	509-0206	岐阜県可児市土田 1221 番地 5	Tel. 0574-25-3113
	桜ヶ丘病院	424-8601	静岡県静岡市清水区桜が丘 13-23	Tel. 054-353-5311
静岡	三島総合病院	411-0801	静岡県三島市谷田字藤久保 2276	Tel. 055-975-3031
	中京病院	457-8510	愛知県名古屋市中区三条 1-1-10	Tel. 052-691-7151
愛知	四日市羽津医療センター	510-0016	三重県四日市市羽津山町 10-8	Tel. 059-331-2000

近畿四国地区

滋賀	滋賀病院	520-0846	滋賀県大津市富士見台 16-1	Tel. 077-537-3101
	京都鞍馬口医療センター	603-8151	京都府京都市北区小山下総町 27	Tel. 075-441-6101
	大阪病院	553-0003	大阪府大阪市福島区福島 4-2-78	Tel. 06-6441-5451
	大阪みなと中央病院	552-0003	大阪府大阪市港区磯路 1-7-1	Tel. 06-6572-5721
	星ヶ丘医療センター	573-8511	大阪府枚方市星丘 4-8-1	Tel. 072-840-2641
	神戸中央病院	651-1145	兵庫県神戸市北区惣山町 2-1-1	Tel. 078-594-2211
兵庫	大和郡山病院	639-1013	奈良県大和郡山市朝日町 1-62	Tel. 0743-53-1111
	玉造病院	699-0293	島根県松江市玉湯町湯町 1-2	Tel. 0852-62-1560
	りつりん病院	760-0073	香川県高松市栗林町 3-5-9	Tel. 087-862-3171
愛媛	宇和島病院	798-0053	愛媛県宇和島市賀古町 2-1-37	Tel. 0895-22-5616
	高知西病院	780-8040	高知県高知市神田 317-12	Tel. 088-843-1501

九州地区

山口	下関医療センター	750-0061	山口県下関市上新地町 3-3-8	Tel. 083-231-5811
	徳山中央病院	745-8522	山口県周南市孝田町 1-1	Tel. 0834-28-4411
福岡	九州病院	806-8501	福岡県北九州市八幡西区岸の浦 1-8-1	Tel. 093-641-5111
	久留米総合病院	830-0013	福岡県久留米市櫛原町 21	Tel. 0942-33-1211
	福岡ゆたか中央病院	822-0001	福岡県直方市大字感田 523-5	Tel. 0949-26-2311
佐賀	佐賀中部病院	849-8522	佐賀県佐賀市兵庫南 3-8-1	Tel. 0952-28-5311
	松浦中央病院	859-4594	長崎県松浦市志佐町浦免 856-1	Tel. 0956-72-3300
	諫早総合病院	854-8501	長崎県諫早市永昌東町 24-1	Tel. 0957-22-1380
熊本	熊本総合病院	866-8660	熊本県八代市通町 10-10	Tel. 0965-32-7111
	人吉医療センター	868-8555	熊本県人吉市老神町 35	Tel. 0966-22-2191
大分	天草中央総合病院	863-0033	熊本県天草市東町 101	Tel. 0969-22-0011
	南海医療センター	876-0857	大分県佐伯市常盤西町 7-8	Tel. 0972-22-0547
	湯布院病院	879-5193	大分県由布市湯布院町川南252	Tel. 0977-84-3171
宮崎	宮崎江南病院	880-8585	宮崎県宮崎市大坪西 1-2-1	Tel. 0985-51-7575

JCHO「理念」

我々全国ネットのJCHOは
 地域の住民、行政、関係機関と連携し
 地域医療の改革を進め
 安心して暮らせる地域づくりに貢献します

JCHOニュースは、
 JCHO病院の今を伝えます。



地区事務所

本部 〒108-8583 東京都港区高輪3-22-12 3F
 北海道東北地区事務所 〒981-3281 宮城県仙台市泉区紫山2-1-1 仙台病院3F
 関東地区事務所 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 1F
 東海北陸地区事務所 〒457-0866 愛知県名古屋市中区三条1-1-10 中京病院健康管理センター内
 近畿四国地区事務所 〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島4-2-78大阪病院別館3F
 九州地区事務所 〒866-8662 熊本県八代市松江城町2-26 熊本総合病院健康管理センター棟4F

JCHOニュースアーカイブ
 URL
https://www.jcho.go.jp/jchonews_archive/

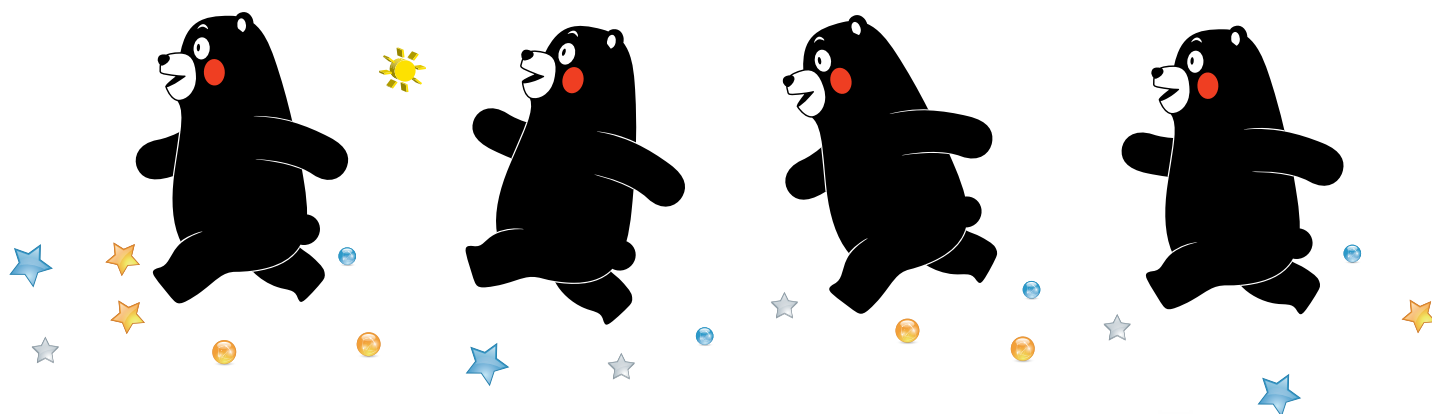




安心の地域医療を支える

JCHO NEWS

Japan Community Health care Organization News



2022年10月21日 ©2010 熊本県くまモン



【特集】

第7回JCHO地域医療総合医学会開催



©2010 熊本県くまモン #K35243

02 令和4年度
事務総合職新入職員研修

03 清水さくら病院(仮称)の起工式

04 第7回JCHO地域医療総合医学会

07 【トピックス】
職場チームによる業務改善の取り組み
最優秀賞：群馬中央病院

12 【トピックス】
診療看護師(NP:Nurse Practitioner)とは

14 【広報アラカルト】
第3・4回勉強会
病院広報が劇的に変わる勘所！
病院 内外をもっともっとつなげよう。



令和4年度 事務総合職新入職員研修

2022.12.15-16 本部 全国のJCHO 病院から令和4年度入職者84 名が参加

2023. 1.19 宮崎大学を訪問



左からJCHO宮崎江南病院の白尾一定病院長、
宮崎大学の鯨島浩学長、山本理事長

2023. 1.13 福井県勝山市役所を訪問



左からJCHO福井勝山総合病院の須藤弘之病院長、
勝山市の水上実喜夫市長、山本理事長

2022. 11.29 北海道大学を訪問



左からJCHO北海道病院の古家乾病院長、北海道大学の實金清博総長、
山本理事長、JCHO札幌北辰病院の高橋昌宏病院長

2022. 11.08 福井県高浜町 野瀬豊町長が本部来訪



福井県高浜町の野瀬豊町長(中央)がJCHO本部にご来訪。

大阪病院 辻川薬剤部長が「大阪府 令和4年薬事関係等功労者知事表彰式」にて表彰されました。

大阪府では、毎年「薬と健康の週間」に
合わせて、医薬品等の生産、供給等に長年
にわたり従事し、府民の保健衛生の維持向
上に寄与された功績が顕著な方々に対して、
知事表彰を行っています。

2022年10月27日(木)に大阪府病院薬剤師
会での活躍をうけ表彰されました。



北海道東北地区令和5年度事務職内定者病院見学会

当地区での初の試みと
して、令和4年度事務職
採用試験(令和5年4月
採用)内定者に向けた病
院見学を仙台会場・札幌
会場で開催し、計12名の
方が参加されました。



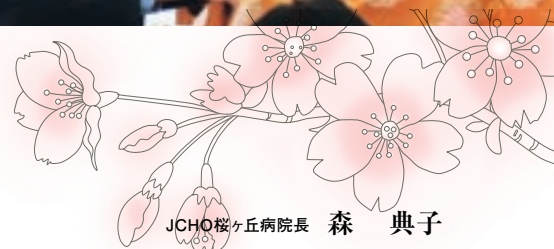
- 2022.12.22 仙台会場
- 2022.12.23 札幌会場

病院内見学の他、先輩職員との
懇談では参加者から多くの質問
があり、就職への不安解消へ繋
がったようでした。





清水さくら病院(仮称)の起工式が行われました。



JCHO桜ヶ丘病院長 森 典子

待ちに待った清水さくら病院(仮称)の起工式が2022年12月21日に行われました。前日までの寒波も和らぎ、たいへん穏やかな晴天の下、静岡市長・行政関係者や地元の経済界を代表される方々、地元の住民の代表のみなさまなど34名の来賓をお迎えし、工事関係者、職員と一緒に工事の無事をお祈りしました。JCHOからは山本修一理事長、内野直樹理事長特任補佐(前JCHO桜ヶ丘病院長)、住田安弘東海北陸地区担当理事、細井昌宏東海北陸地区事務所統括部長にご出席いただき、理事長からは直会のご挨拶もいただきました。感謝、感謝です。

築58年の現在のJCHO桜ヶ丘病院の建屋は老朽化・狭隘化し、雨漏り・水漏れや感染拡大の一因となっています。私が院長に就任した2022年4月以来、すでに8回も病棟の床が水浸しになり、階下の天井は朽ち落ちたところもあります。岩崎厚子看護部長がうら若き看護学校修学資金を借りるための面接を受けた際に、当時の事務長から「2年後には新病院」と言われていたそうですが、様々な紆余曲折があり、建て替え計画が現実化できずに30年余りたってしまいました。やっと建て替え工事の目途が立ったのは前院長の愛

情深くも厳しい職員への指導や叱咤激励と、執拗なまでの本部への説得の賜物です。あいにく、鉄や化石燃料の高騰、追い打ちをかけるような円安で入札の不調が続きましたが、関係者の方々のおかげをもちまして、ついに起工式にこぎつけることができました。かかりつけの患者さんやご家族、地域の方々もさることながら、職員はこの上もない喜びと安堵でいっぱいになっています。

自己資金の乏しい中での建設計画を認めていただいたからには、本部や地域の期待を裏切らないよう、経営も頑張らなければならないことは重々承知しています。幸いにも、地域医療連携推進法人「ふじのくに社会健康医療連合」の枠組みを活用して、医療の質・量ともに拡充できる環境となっていますので、上昇気流をとらえて放さないようにします。この法人化の枠組みも前院長の功績の一つです。

建物や設備だけでなく、ソフト面でもひと回りもふた回りも大きく成長した清水さくら病院(仮称)をめざしてがんばります。2023年着工、2024年12月竣工の予定ですが、工事の進捗をホームページにアップしていきますので、どうぞ注目しておいてください。



©2010 熊本県くまモン #K35243

JCHO学会 in Kumamotoは、
コロナ禍のため2年延期になりましたが、
2022年10月21日・22日の両日、地方開催の
第1回目として熊本城ホールを全館貸し切って
開催いたしました。

特集 第7回

石川さゆりさん
JCHO

このたびの「熊本大会」が終了するまで、手ばかりや失礼はないだろうか、本当に皆さんに満足して頂いてい
るだろうかと心労の連続でありましたが、皆さんに「大
盛会で素晴らしい学会だったよ!」と褒めて頂き、これ
までの苦労と心配から一遍に解放され、本当に安堵しま
した。

また、この紙面をお借りして、これまで多大なご支援
を頂きました、山本理事長を始めとするJCHO学会理事
の先生方、JCHOの全病院長及び職員の皆さん、JCHO
学会事務局、ならびに本学会
に貴重なご厚情を賜りまし
た各界の皆さんに心から感
謝を申し上げます。



in Ku

コロッケさん くまモンが駆けつけました！ 地域医療総合医学会

第7回JCHO地域医療総合医学会 会長 島田 信也

有難いことに全国のJCHO病院長の先生方からは、
「テーマの『ウイズコロナ時代の新しい医療と地域づくり』を考える良い機会となったので、今後、地元にとの
ように貢献するか熟考したい」、「他学会に比較にならないくらい、十二分に楽しんだ」、「この学会を契機にさらにJCHOがより良い組織となると確信した」など心優しい賛辞を多数頂きました。



2年ぶり、
熊本にて開催！



2022年10月21日
©2010熊本県くまモン



mamotto



第7回JCHO地域医療総合医学会

『職場チームによる
業務改善の取り組み』の
表彰式



想いの共有

「第7回JCHO地域医療総合医学会」の準備作業は3つの目標を定め取り組みました。1つ目は「対面による現地開催」、2つ目は「地方開催の運営形式の構築」、3つ目は「島田信也会長の『想い』の実現」です。

1つ目については、可能な限りの感染防止対策は講じましたが、クラスターが発生しないことを祈るばかりでした。結果として現地開催を起因とする報告はありませんでしたが、これは参加された皆様が適切な行動を取られた証左だと思います。



一般社団法人地域医療機能推進学会

事務局長 中村 仁

2つ目については、コロナ禍が終息しない中での開催となり、全国からどれだけ参加して戴けるか正直不安でしたが、両日に亘り会場を埋め尽くす参加者に胸を撫でおろしました。これは準備段階から当日の運営までご尽力を戴いた熊本総合病院をはじめ九州地区病院の皆様のお力であり、今後の運営形式の在り方を示唆していると思います。

そして3つ目ですが、皆様ご承知のとおり熊本城ホールは《島田劇場》と化しました。本学会が盛会裏に終えられたのはひとえに島田信也会長の『熱き想い』です。そして対面による現地開催としたことで、参加された皆様と『想いの共有』が達成されたのではないかと思います。ありがとうございました。

in Kumamoto



最優秀賞

「業務理解度」および「スキルマトリックス」を用いた業務改善の試み

JCHO群馬中央病院 主任臨床検査技師 北爪 洋介



この度は、最優秀賞という名誉ある賞を頂きまして、大変光栄に思っております。

検査部が担当する業務は、多部門、多種類に及び高い専門性や資格が必要になります。日々の円滑な業務遂行には、計画的なローテーションによる複数の部門を担当できる人員の育成と配置が不可欠です。そこで検査部では「決して業務に穴をあけない」を目標に掲げ、スキルマトリックスを用いた業務改善を行ってきました。

業務理解度による個々のスキル評価：業務の習得状況を確認する（総評価項目数：952）

- 1 判定時期：半年毎に実施。他に新人入職時、他部門へのローテーション時、日当直トレーニング時
- 2 判定方法：項目毎に、まず評価対象者が自己評価を行う。次に部門長又は認定資格者が評価を行う。

時間内業務理解度（輸血）
評価日：前時 2022年4月1日 後時 年 月 日
評価対象者：けんま太郎 部門評価者：あかき花子

①指導者は評価項目を「教えた」が確認
②対象者は「聞いた」、「理解した」、「できる」の3段階で自己評価
③評価者は対象者が「できる」が確認

評価項目	評価項目	評価項目	評価項目		評価項目		評価項目	
			教えた	聞いた	理解した	できる	評価者	評価者
検査前の確認事項	0-1	○						
検査・監視確認	0-2	○						
異常発生後の対応	1-1	○						
輸血事故・重篤な副作用の対応	管理M-1	○						
輸血拒否の対応	管理M-2	○						

スキルマトリックスⅠ・Ⅱ：業務理解度を基に年二回作成。個人目標やローテーション計画の策定に利用

スキルマトリックスⅠ：部門状況を確認
業務理解度から部門長が反映

生理検査		血液・輸血検査	
腹部超音波	心臓超音波	検査	管理
技師A	技師A	技師A	技師A
技師B	技師B	技師D	技師D
技師C	技師C	技師B	技師B
技師D	技師D	技師E	
技師E	技師E		

・技師背景色
青色：8割以上業務ができる
＝青色を“できる”と判断
桃色：4割以上～8割未満
黄色：技能が4割未満
・赤色の下線
各部門で設定した“できる”の目標人数
目標人数が未達成のためトレーニングを最優先

スキルマトリックスⅡ：個人のスキル習得状況を確認
スキル状況、経験年数を考慮して他部門へのローテーションを計画

部門	項目	技師A	技師B	技師C	技師D	技師E
生理	超音波	●	●	●		
	心臓	●	●			
血液・輸血	検査	●			●	
	管理	●			●	
病理	細胞診			●		●
	解剖					●
細菌	一般細菌		●		●	
	ラウンド				●	
胚培養	検査			●		
NST	ラウンド		●	●		
DM	ラウンド	●				●

■スキルマトリックス導入の効果（2018年と21年を比較）

- 業務が“できる”担当技師が2倍程度に増加
- サポート体制が構築され超過勤務が46%削減
- 技量の精度向上でインシデントが20%削減
- 学会発表、論文作成数の増加
- 取得の難易度が高い細胞検査士、感染制御認定臨床微生物検査技師、超音波検査士などの認定資格者が増加

「業務理解度」「スキルマトリックス」を用いた組織の“見える化”により、計画的に実施できていなかった各部門の整備や個人のスキルアップに組織全体が納得して取り組むことができました。その結果、新型コロナウイルス感染拡大による突発的な欠員に対し、時間単位のシフトを組むことで業務に支障を来すことは殆どありませんでした。

院長の評価

この取り組みは、コロナ禍という困難な状況で病院運営に大きく貢献してくれました。院長として大変ありがたく、感謝しています。（院長 内藤 浩）

優秀賞

新病院の救急外来における
診療看護師(=NP)の取り組み

JCHO仙台病院 7階東病棟 副看護師長 診療看護師 新田 学



この度は、優秀賞をいただき大変光栄に思っております。

当院は令和3年5月1日に移転し、病床数は384床、診療科数は21診療科で、仙台市の中核病院としての役割を担い運営しております。救急外来では、NPと各科の医師が協働し、救急車の受入体制を整えました。その結果、例年は受入件数900～1,000台程度のところ、令和3年度は1,600台を達成しました。そして、次の目標として「救急車受入2,000台計画」を掲げています。

救急車の受入体制を整えたと言いましたが、当院にICUはなく救急医もおりません。外科系と内科系の医師たちで救急担当医を決め、通常診療と並行して救急車の対応をしています。また、平日に常駐している看護師もNP1名のみで、都度、外来看護師、放射線技師、事務員の手を借りています。

そのため、「救急車受入2,000台計画」を実行するには、医師の指示を待つだけでは後手となります。NPが患者の状況を把握、アセスメントし、タイムリーに医療を提供することで、医師の負担軽減になるように努めています。



もちろんNPだけで救急外来を運営しているわけではなく、前述の多職種で医療を提供することで、ようやく軌道に乗ったと感じています。引き続き、救急外来をよろしく願います。



診療看護師

(=NP: Nurse Practitioner) とは

日本NP大学院協議会が定める大学院の修士課程を修了し資格認定試験に合格した者で、看護職でありながら、一定の制限で診療を行える看護師です。具体的には、動脈採血や手術の助手などの医行為を直接的指示もしくは特定行為手順書に沿って実践することができます。



院長の評価

当院が移転し、救急車の受け入れをどう増やすかが大きなテーマでした。それが見事、当直医の負担軽減を自分達NPで考え、救急受入件数は倍増しました。医師の信頼も篤く、NP無くして当院の救急は回りません。今後の医療に必要不可欠の存在であり、当院を支えるNPに感謝！（院長 村上 栄一）

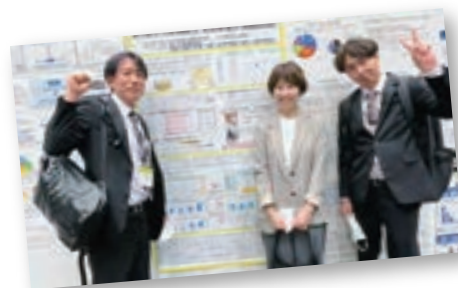
「知ってもらう」から始めました。 みんなで取り組んだ 「放射線科の広報誌」

JCHO大和郡山病院 放射線科 診療放射線技師長 中尾 哲
できることから取り組み隊「放射線科営業企画室」



私たちは、病院経営改善に向けて「何も考えず何も行動しなければ、何も実らない一年になってしまう」そんな危機感から部署目標達成（件数増加）に向けて「放射線科の広報誌」を新しく制作しました。広報誌は、毎朝各診療科に診療放射線技師が足を運び、医師との対話を積極的に行っています。各病棟には、朝の看護部のミーティング時に配布してもらい、看護部に協力して頂いています。

「放射線科の広報誌」は、2021年5月17日の発刊から、2023年2月末時点で380回を超える発行につながりました。CT・MRI・骨密度検査において、過去4年を上回る件数や収益に結び付いています。医師や看護師、職員みんなの協力、管理職の後押し、放射線科全員の頑張りによって得られた価値ある成果だと思っています。



院長の評価

「放射線科の広報誌」は2021年5月の発刊以来、2023年2月で380回を重ねています。CT・MRI・骨密度の検査件数が増加しただけでなく、看護師や医師はじめ様々な職種との対話、コミュニケーションの広がりを実感します。さらなる部署間の対話や協力に繋がることを期待します。（院長 松村 正彦）

優秀賞

検査部門革新から好連鎖を生み出した
働き方改革への取り組み

JCHO熊本総合病院 検査部 主任臨床検査技師 松本 翔太



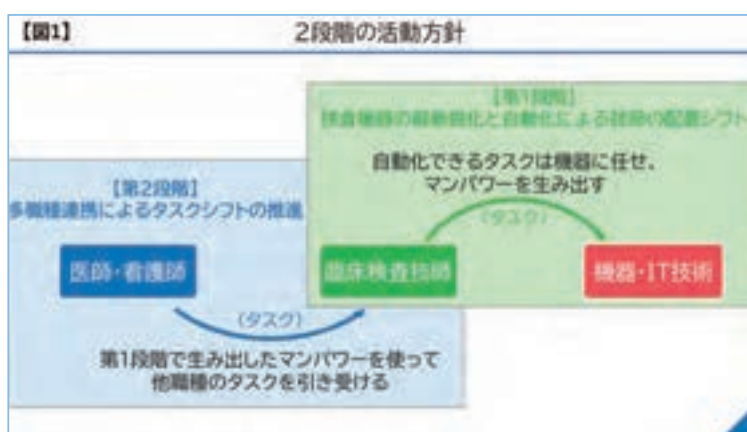
「医師・医療従事者の働き方改革」の具体的解決策として挙げられJCHO中期目標の1つにも設定されている「タスクシフト・シェア」に対し、熊本総合病院働き方改革推進プロジェクトチームを立ち上げ取り組みました。この動きに取り組むことは、働き方改革を推し進めると同時に、かつて検査室内が活動の場であり歴史的に「緑の下の方持ち」であった臨床検査技師が自分たちの活躍の場を広げ、積極的に臨床現場に出ていくチャンスでもあると考え、以下の2段階で進めていきました。

①第1段階として、自動化に伴う省力化を進めやすい検体検査業務に着目し、最新鋭の機器を導入しました。この成果として、当院の伸びに伴う患者数および検査数の明らかな

増加に対して担当者数を増やすどころか最小4名体制という限られた人数での検体検査を可能としました。機器・IT技術に任せられる部分は任せ、技師の手技を必要とする領域に人員をシフトすることができ、生理検査部門や外来採血部門の増員が実現しました。検査結果の待ち時間短縮、検査コストダウンも同時に成功しました。

②第2段階として、第1段階で生み出したマンパワーを使って、他職種のタスクを引き受けました【図1】。様々な成果を達成しましたが、最も大きなものは腹部超音波検査を医師の業務から技師の業務へシフトできたことです。技師が検査を担当する割合が42% (2016) → 76% (2021) と飛躍的に向上し、医師は内視鏡検査や診療に時間を割くことができるようになりました。超音波検査認定技師の育成も同時に進め、取得者が6名に増えたことで質の高いタスクシフトを達成しました。

私たちはこの取り組みを通し、新たな雇用を生むことなく、更には医療の質を担保しながら他職種のタスクを引き受けることができました。タイトルにおいて、検査部門の革新という1つのきっかけで歯車が動き出し、病院内に次々と良い結果を生み出すことを「好連鎖」と表現しました。今後もこの好連鎖の歯車を回し続けるとともに、更に発展させていく所存です【図2】。今春、増改築で生まれ変わる熊本総合病院は「建物も職員も日本一、を目指して」邁進していきます。



院長の評価

日本は、残念ながら国土も狭く資源もない国ですから、これまでの発展は偏に「ものづくりへの情熱」であった訳ですが、最近、何故か「働き方改革」が叫ばれていますので医療も対応せねばなりません。当院の検査部では、革新努力によってその対応を行っており、高く評価しております。(院長 島田 信也)

優秀賞

排尿自立支援チーム介入による 下部尿路機能障害改善への取り組み

JCHO人吉医療センター 副看護師長 今田 泉



排尿障害を抱える高齢者が多い中、相談できる体制が不十分でした。そこで、2020年11月から下部尿路機能障害の改善を目的に、医師、看護師、薬剤師、理学療法士で構成する排尿自立支援チームを発足し、本格的な活動を2021年2月から開始しました。

活動開始から2022年3月までの相談件数は115件、相談内容は膀胱留置カテーテル抜去後の排尿障害が83件と最も多く、次に尿失禁19件でした。活動内容は、超音波残尿測定器を1台から3台へ増やし測定器使用方法を説明し、排尿日誌の記録指導、下部尿路機能の評価、必要最小限の導尿の提案、排泄動作自立支援、薬剤調整を実施しました。

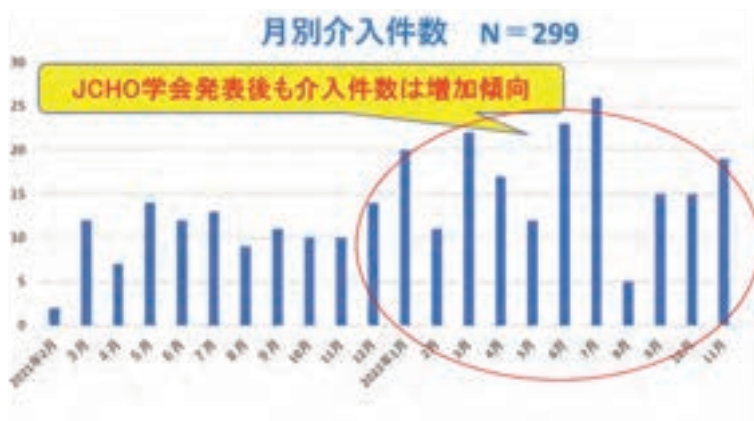
また超音波残尿測定器を活用し、導尿の目安やタイミン

グを科学的に判断することができるようになり不要な導尿を減らすことができています。さらに患者様にも残尿量を表示することで、導尿の必要性を理解していただき残尿量が減っていることを一緒に喜ぶ場面が多く見られるようになってきました。

また、排尿日誌は、当初「面倒だ」という意見がありましたが、患者様の排尿パターンに合わせたアセスメントにつながり排尿誘導に必須となることを説明し、改善を行い使用しやすくなりました。

排泄行動への介助は、羞恥心を伴うことにより悲観的になられる患者様も多いため、今後も患者様の声を真摯に受け止め、1日でも早く排尿が自立することで、日常生活動作拡大につながるよう多職種での支援に努めていきたいと考えています。

学会発表後の介入件数も増加傾向にあり、チームの士気も更に上がっております。この度は、優秀賞をいただき本当にありがとうございました。



院長の評価

この地域で多くの患者が問題意識を抱えていた「排尿自立」に関する支援介入に取り組むことができた意義は高いと感じています。QOL向上は患者さんだけでなく、医療スタッフのモチベーションの向上に寄与するものだと確信しています。（院長 木村 正美）

NP

初めまして、
診療看護師です

NP : Nurse Practitioner

JCHO大阪病院 心臓血管外科 診療看護師 深井 照美



診療看護師 (NP) は、看護師資格持ち、5年以上の臨床経験、日本NP大学院協議会の定める大学院修士課程 (NP養成コース) を修了し、資格認定試験に合格すると診療看護師になります。資格取得後は、各病院で医師の指導の下、ローテーション研修を1年～2年行います。初めて行う特定行為は医師と共に、協力する医師から許可が得て初めて実施するなど、患者さんの安全にも注意を払いながら実施しています。

診療看護師は、毎日の回診などで治療方針を確認し、手術/検査/外来中の医師に代わり、ドレーンやカテーテル抜去などの特定行為、処方や検査のオーダー (代行オーダー)、他科の医師に相談 (他科依頼)、患者さんやその家族へ説明、医療ソーシャルワーカーと転院調整を行うなど、様々なことをタイムリーに行なっています。(注意! 病院によって診療看護師の役割が違うので、実際に行っている業務は同じではありません) 診療看護師は、日本の医療現場における医療の高度化、患者さんそれぞれの複雑な社会背景への対応、医師・看護師の労務軽減など多くの役割が求められていると考えています。

今回は、JCHOグループで働く診療看護師12名のネットワークを作りました。今後、私たち診療看護師の活動を学会などで報告をしていきたいと考えています。まだまだ限られた施設にしかいませんが、各病院で働く診療看護師の実際を紹介します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



PICC挿入

JCHO東京高輪病院
循環器内科 診療看護師

松橋 詩織

2013年に大学院を修了し1年間のローテーション研修を経て循環器内科に所属しています。指導医とペアリング体制をとり、指導医が外来や検査などで病棟を不在にすることが多い中でも患者さんの治療がタイムリーに遂行できるように努めています。

私の業務は診療科での業務と横断的活動に分けることができます。診療科の業務では、入院患者の管理・ペースメーカー外来・心臓カテーテル検査・治療の助手などが主な業務です。入院患者の治療で日々の状態をアセスメントし、医師と連携をとることで早期に治療へ繋げることが役割だと考えます。また、疾病管理と並行して生活指導を行い、疾病予防の動機付けや予防医療に繋げていきます。

横断的活動ではRRS (院内迅速対応システム: 院内心停止になる前に早期に患者の急変に気づき、心停止になる前に介入することで、予後を改善するシステム)・ICLS (Immediate Cardiac Life Support: 突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生を習得する蘇生トレーニング)・心不全Team・禁煙外来の他に国内初のPICC (末梢挿入型中心静脈カテーテル) チームを立ち上げ全科から依頼を受け挿入～管理を行っています。

診療科・横断的活動共に多職種との繋がりはとても大切であると感じており、多方面と連携を密にしながら患者さんの医療の質が上がるような活動を継続していきたいと思っています。



JCHO本部とNP意見交換会



病棟カンファレンス



電氣的除細動の実際



NP1年目、指導医から教えてもらっています



救急外来でエコーの実際

JCHO中京病院

看護部(心臓血管外科) 副看護師長/診療看護師

伊藤 美佳

2016年より当院心臓血管外科の一員として診療看護師の活動を始め、主に後天性心疾患の患者を中心に外来から退院までシームレスに治療とケアを提供しています。もちろん、小児を含めたICU管理も医師と共に行い、ICUスタッフの相談・対応をします。外来ではNP外来を設立し、患者様の身体診察や検査の確認、患者様の状況に応じた前評価を行い、安全、そして安心して手術が行えるよう取り組んでいます。診療看護師は、医療行為が主体の看護師の印象が強いですが、医師と協働し、患者様の回復にむけて医師、看護師、そのほかのコメディカルとの連携を中心に、よりよい医療を提供できる役割を担っています。また、看護師教育においても特定行為研修指導者として高度な実践能力が実践できるよう支援しています。



JCHO九州病院 看護部 診療看護師

福田 和行

2021年3月に診療看護師の資格を取得後、現在は、看護部所属の診療看護師として麻酔科・救急科で活動しています。麻酔科では麻酔科医師と協働し、患者さんの状態に応じて安全に手術ができるように努めています。具体的には全身麻酔や下半身麻酔を行う際に麻酔機器の点検・準備や人工呼吸を行うための気管チューブの留置・点滴の確保などを行っています。救急科では、救急医と協働し、診療看護師が初期診療に参加しています。救急車で来院される患者さんへの問診や身体診察、ベッドサイドでの超音波検査を実践し病態把握に努め、必要とされる医療・看護をタイムリーに提供し、適切なタイミングで病状説明ができるように心がけています。病状だけでなく、療養生活について患者さんやご家族のニーズに対応できることが診療看護師の強みです。医師へ直接相談しづらいことなど、遠慮なくご相談いただければと思います。今後も患者さんの診療に関わる医師、看護師、コメディカルの職種間の橋渡しを担い、九州病院のチーム医療強化に貢献していく所存です。

第3・4回 勉強会

病院広報が劇的に変わる勘所！病院

「コミュニケーション戦略会議」も発足



第3回・第4回 広報勉強会レポート

特任補佐 徳岡 晃一郎

22年度に初めて開催した広報勉強会は好評のうちに3,4回目を実施し終了しました。延べ参加人数は460人と大変多くの方々が参加され、広報のプロである千葉大学医学部附属病院 特任准教授（広報戦略担当）である鹿野先生のご指導の下で実践ノウハウを学んでいただきました。JCHOの広報力はグンと高まったのではないのでしょうか。今回はその後半2回のエッセンスをご報告します。

第3回 テーマ

病院内広報充実の勘所

第3回のテーマは「病院内広報充実の勘所」でした。

病院内の広報の課題としては、「上層部のメッセージが伝わりにくい」「周知はしているが『聞いてない』と言われてしまう」「職員間の意思疎通がいまひとつ」「現場の声が上層部に伝わらない」など多々ありますが、これらが重なると病院全体が一丸となった機動力や職員のモチベーションに大きな影響が出てきます。病院に限りませんが図1のようなコミュニケーションの課題が多くの組織で見られるのが実態です。逆に、院内広報がうまくいけば、トップのリーダーシップの下で皆のベクトルが合い、職種や立場を越えてつながりが生まれ、助け合う素晴らしい病院・組織・チームになるはずです。

そのためにも、図2にあるようなさまざまなコミュニケーション手段を通じて、メッセージを共有していくことが重要です。職場が団結したり盛り上がるのが大事なので、楽しく活発に活動を展開していくことが大切です。それゆえ、広報の担当者は上層部との情報や思いの共有、現場の声や思いを把握できるような日頃の対話をしていくことが大切です。また年間でどのようなメッセージをどういったツールを使って伝えていくかという広報戦略も欠かせないことを学びました。（この詳細は23年度の広報勉強会で取り上げてみたいと思います）こうした活動がしやすくなるよう、病院長はじめ上層部の方は広報担当者や管理職にどんどん情報を共有いただくことが重要になります。

図1：コミュニケーションにおける問題

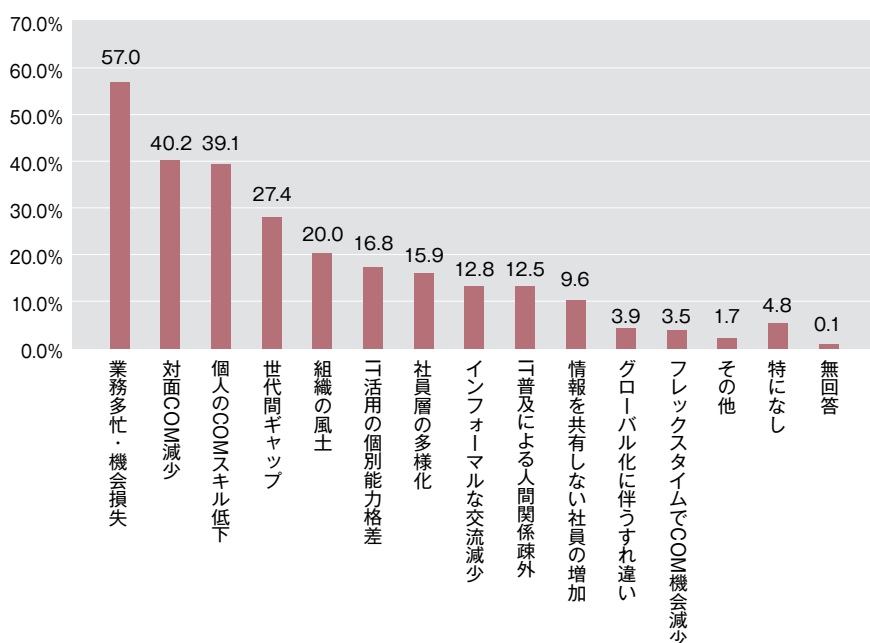


図2：さまざまなコミュニケーション手段



内外をもっともっとつなげよう。

第4回 テーマ

外部メディアとの付き合い方の勘所

第4回のテーマは「外部メディアとの付き合い方の勘所」でした。

地元の新聞やテレビなど外部メディアは情報（ネタ）を欲しがっています。質の高い医療を提供するために日夜様々な工夫をしている私たちはネタの宝庫でもあります。しかし、これまでは病院側からネタの提供を十分してきたとは言えません。もったいないわけです。

メディアには新聞・テレビ（全国メディア、地元メディア、ウェブメディア）、業界紙、専門サイト、ビジネス誌・オンラインメディア、関連団体が発行する媒体、個人が発信するSNSなど最近はとても多様です。こうしたメディアと知り合いになり、関係づくりをしていくことが重要になります。彼らを通じて、**図3**にあるようなステークホルダーである**患者・家族、地域の人々、地域の医療機関、行政、潜在的採用候補者、取引先**など多くの方たちから支援を得られることにつながります。それがまさに**広報＝Public Relations**の意義なのです。**報道機関やメディアは一見敷居が高そうですが、実は有益な情報や勉強の機会を求めているのです。**病院の新築、増改築、新設備導入、新サービス開始はいいチャンスです。また、日ごろから記者を招いて病院案内や情報交換・懇談をする（プレスツアー、プレスセミナー、記者懇談会）など**病院の実態を正直に見せることも好感度アップには欠かせません。**ぜひ怖がらずにアプローチして、彼らを通じて地域の応援団を増やしましょう。



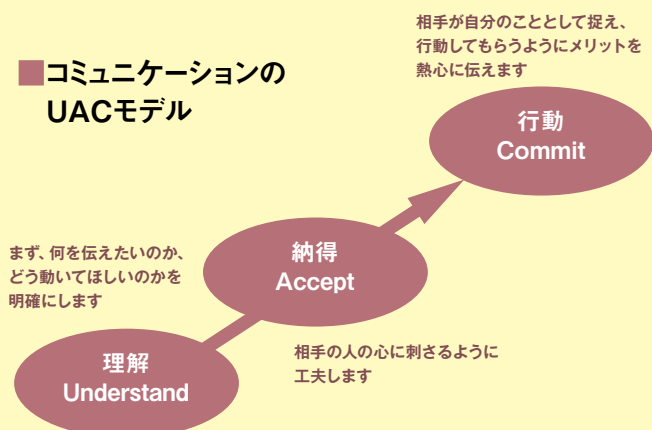
図3：さまざまなステークホルダーとつながっていますか？

広報勉強会は大変好評だったこともあり、新たなテーマを検討し23年度も継続していく予定です。またJCHO全体のコミュニケーションをさらに充実させていくために、「**コミュニケーション戦略会議**」も12月に発足しました。広報やコミュニケーションに関して情報交換や勉強をしていただきつつ、JCHOニュースなどの媒体、広報勉強会や個別病院向けの広報クリニック（新設予定です）などをテーマに議論し、JCHO全体でのレベルアップを図っていきます。ぜひご期待ください。

コミュニケーションのワンポイントアドバイス：UACモデル

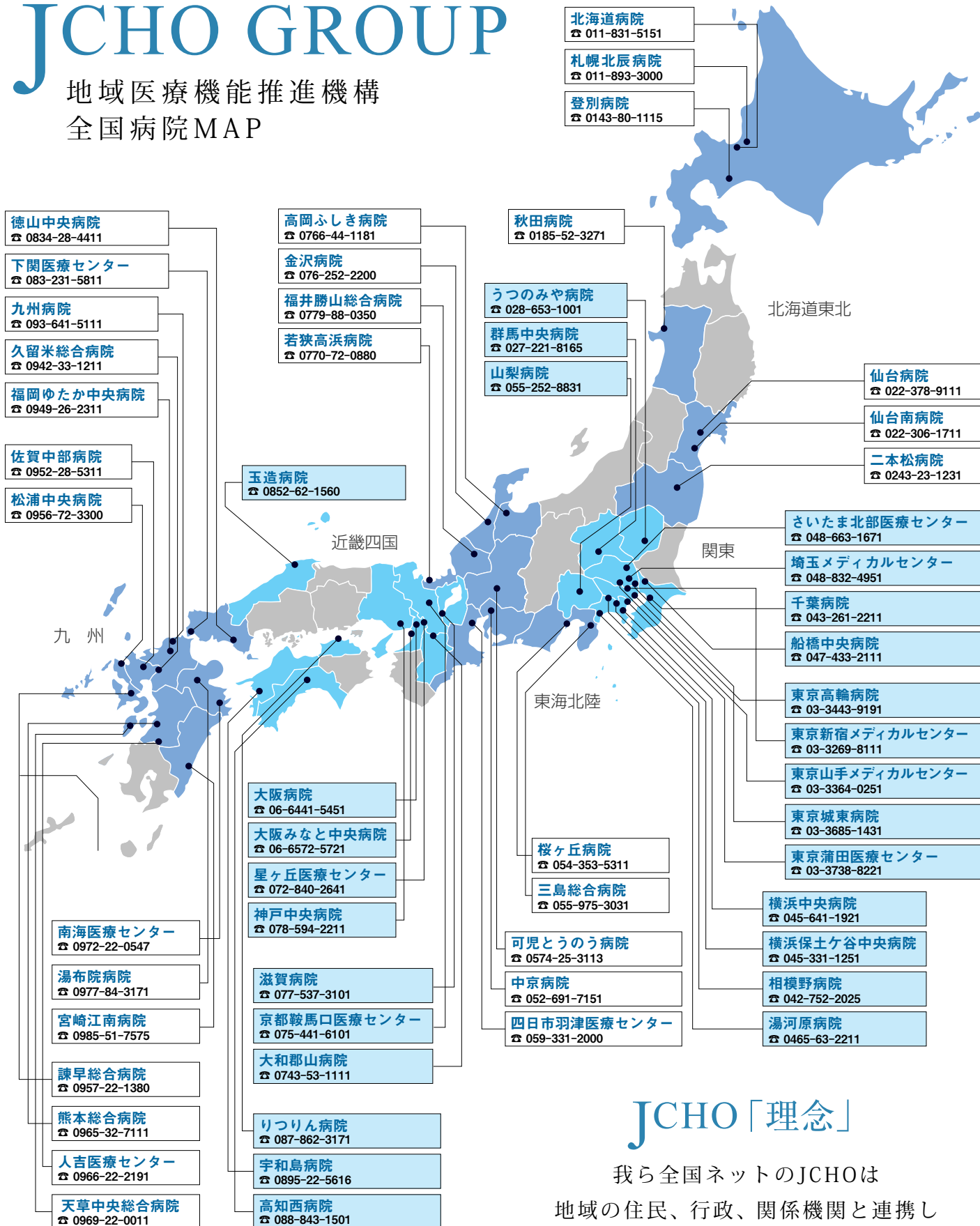
コミュニケーションの目的は人を動かすことです。病院に来てくれる、処方通り体に気をつけてくれる、チームの約束通り動いてくれる、などなど。**UACモデルがそのカギになります。**UACとは**Understand, Accept, Commit**の頭文字。理解して、納得し、行動するという順番で人は動いていくというモデルです。話を聞いて頭で理解し、納得して腹落ちする。そしてはじめて人は行動するということです。コミュニケーションに当てはめると、情報を一生懸命提供して、頭で理解してくれるまでがまず第一歩。しかし聞き流されてしまうかもしれません。ですので、単に伝えるだけではなく熱心にわかりやすく興味をそそるように話し納得してもらわなければいけません。それでも「わかるけどね…」で終わる場合もありますね。そこで最後の一押しで、メリットや意義を強調し動いてもらうのです。みなさんは普段、どこまで意識してコミュニケーションしていますか？

■コミュニケーションの UACモデル



JCHO GROUP

地域医療機能推進機構
全国病院MAP



JCHO「理念」

我々全国ネットのJCHOは
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します